GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2013

海外留学・海外インターンシップ・国際ボランティア

THE UNIVERSITY OF TOKYO

Local + Global = ∞

世界を知るということ

2012年も、語学力も国際経験も十人十色の東大生が、一歩を踏み出し、海外へ飛び出しました。
それはある人にとっては小さな一歩であり、またある人にとっては大きな一歩だったことでしょう。
世界を知り、また世界を知ることで日本を意識し、
世界の友人からの刺激と友情を胸に日本に戻った東大生たち。
彼らは、これまでの環境で身につけた能力に、海外での経験というスパイスを加え、
一味も二味も違う学生に成長し、決意を新たにそれぞれの場所で活動を始めています。
みなさんも、小さくて大きな、世界への第一歩を踏み出してみませんか。

CONTENTS

留学の種類 …… 04

1. 全学交換留学 …… 05
全学交換留学（国際本部担当）協定校一覧 …… 06
全学交換留学（国際本部担当）応募状況 …… 06
交換留学体験談 …… 07

2. 東京大学交換留学協定校一覧（全学・部局間） …… 08

3. 3ヶ月未満の留学（大学を通じて応募するもの） …… 10
年間募集サイクル …… 11
3ヶ月未満の留学　プログラム一覧 …… 11
3ヶ月未満の留学　体験談 …… 12

4. その他の留学（個人応募での留学など） …… 14
その他の留学　体験談 …… 15

5. 留学の計画と準備 …… 16
学部での全学交換留学　留学時期のパターン（実例） …… 17
留学等における学籍・単位認定など …… 18
外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生） … 18
外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例 …… 19
留学にかかる費用 …… 20
英語能力試験 …… 20
留学と就職活動 …… 21

6-1. 海外インターンシップ …… 22
6-2. 国際ボランティア …… 23
JICA×東京大学　短期ボランティア（プログラム） …… 24
東京大学体験活動プログラム …… 24
インターンシップ体験談 …… 24
ボランティア体験談 …… 25

7. 大学院留学 …… 26

8. 安全と危機管理 …… 27

9. 奨学金・海外活動奨励費 …… 28
主な奨学金・海外活動奨励費　一覧 …… 29

10. 学内でできる国際体験 …… 30

11. 東京大学の留学・国際交流関係部署 …… 31

12. 留学・国際交流に関する情報収集 …… 32

多様な国際経験を積み、知や社会のフロントを切り拓く力を。

東京大学理事　江川 雅子

社会がグローバル化に向けて大きく舵を切り、学術の世界でも国際競争が激しさを増している現代において、国際化は東京大学の最優先課題の一つです。東京大学は、その将来構想である「FOREST2015」で、「グローバル・キャンパスの形成」を重点テーマとして掲げ、将来的には全ての学生に海外留学・派遣を含む国際的な学習・研究経験を積んでもらうことを目指しており、今後さまざまな国際的な教育プログラムを推進していく予定です。

学生の皆さんは、交換留学により1学期～1年の間、東京大学の協定校に留学できるほか、夏休みなどを利用して東京大学と関係の深い海外の大学に数週間留学し、専門科目や語学を学ぶこともできます。今後、大学主催の短期間の留学プログラム、奨学金も順次増やしていく予定です。また、海外の大学の留学プログラムに直接応募する、学外の団体のサービスを利用するなどの方法で個人留学もできますし、留学に加えて海外インターンシップや国際ボランティアの機会もあります。東京大学は、皆さんがこのような国際交流への一歩を踏み出せるよう、サポート体制の強化も図っています。

さらに、東京大学のキャンパスには現在約3,000人の留学生が学んでいます。皆さんにはこれらの留学生と積極的に交流していただきたいと思います。国内外におけるバックグラウンドが異なる仲間との出会いは、皆さんの学生生活を豊かなものにすることでしょう。

未来を見通しにくい不確実性の下、社会の安定的な発展と成熟をいかに実現していくかということが、時代の課題です。学生の皆さんが、多様な国際経験を通じ、東京大学が教育の目標としている「国際的な広い視野を有し、強靭な開拓者精神を持ちつつ、公共的な責任を自ら考え、行動する」タフな東大生へと成長し、知や社会のフロントを切り拓いていってくれることを期待しています。

留学の種類

一口に留学といっても、留学には以下のような様々な種類があります。
各自の目的、希望する留学先、期間などによって、様々な形で留学を実現させることができますので、
最適な留学方法を検討しましょう。

1　交換留学（1学期〜1年）

p. 05

A　全学交換留学

交換留学とは、その名の通り、東京大学と東京大学の協定校（東京大学が学生交流覚書を締結している海外の大学）が1学期〜1年の間、学生を交換する留学プログラムです。（英語では一般的に"Student Exchange"と言います。）東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料は支払わずに、協定校で科目を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。
この交換留学を大学全体で実施するのが「全学交換留学」です。

p. 08

B　部局間の交換留学

前述の交換留学を、大学全体ではなく、特定の学部・研究科（以下「部局」と呼びます。）でのみ行うのが部局間の交換留学です。東京大学では、各部局の特色をいかした部局間の交換留学も多数行われています。
例）AIKOM（Abroad in Komaba）
教養学部後期課程の学生のための部局間の交換留学制度。海外の諸大学から1年間教養学部後期課程に留学生を受け入れ、それに対応する形で教養学部後期課程の学生を1年間派遣しています。

2　3ヶ月未満の留学（大学を通じて応募するもの）

p. 10

東京大学が加盟する国際大学連合や海外の有力大学など、世界中の大学が、世界の学生向けに3ヶ月未満の留学プログラムを開催しています。開催時期は夏季が多く、期間が短い分、費用を低く抑えることができ、東京大学での授業・課外活動・就職活動等への影響を抑えて留学を経験できます。高い語学力を前提とし世界トップレベルの学生と少人数で受講する集中的なプログラムから、語学学習を目的としたプログラムまで、様々なプログラムがあります。

3　その他の留学（個人応募での留学など）

p. 14

大学を通さず個人応募で留学することもできます。その場合、手続きなどをすべて自己責任で進めることになり、費用面なども含め十分な準備が必要となりますが、東京大学を通じて応募できる大学以外にも留学先を選べるというメリットがあります。留学期間も3ヶ月未満〜1年と様々です。

4　大学院留学

p. 26

1〜3は東京大学在学中の留学です。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への進学についても様々な形で情報提供などを行っています。

1. 全学交換留学

交換留学のメリット

①東京大学の協定校への留学だから安心
東京大学の協定校は評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地では質の高い教育ときめ細かいサポートを受けられます。

②留学先の協定校では授業料の支払いが不要
留学先の授業料が不要になる代わりに、留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料は納める必要があります。

③協定校では交換留学生として優遇される
協定校の交換留学生という特別な立場で留学するので、宿舎を優先的に確保してもらえるなど、特段の配慮をしてもらえるケースが多くなっています。

④協定校で取得した単位を東京大学の単位として認定できる可能性がある（19ページ参照）
学生が所定の手続きを行い、所属する部局で認められた場合、東京大学の単位として認定されます。認定の基準は、部局により異なるため、所属部局や修得した科目によっては認定されない場合もありますので、留学時の所属部局の担当部署に事前に相談する必要があります。

⑤留学期間が卒業に必要な在学期間としてカウントされる（18ページ参照）
留学中の学籍が「休学」ではなく「留学」となるので、留学期間を東京大学卒業のために必要な在学期間に算入することができます。

留学時期

- 1学期間あるいは1年間（留学先の協定校の学年暦（Academic Year）に基づく）
- 海外の大学は一般的に、1学期目:秋学期（8-10月開始、12-2月終了）、2学期目:春学期（1-2月開始、4-5月終了）の2学期制のところが多くなっています（例外あり）。例えば、2013年の秋学期（1学期目）〜2014年の春学期（2学期目）という海外大学の1学年（Academic Year）を2013-2014年期（AY2013-2014）と呼びます。
- 1年間の留学を希望の場合は、原則として秋学期（8-10月開始）からの1年間となります。

主な資格・条件（一例）

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者（留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、留学期間内に東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外）
- 留学時に学部3年生以上であること。（ただし、申請は2年生で可能）
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を有すること。（語学能力・分野など）

応募方法

募集要項を熟読の上、所属する部局の担当部署に必要書類（主な書類:申請書・推薦書・語学力の証明書など）を提出
※英語能力の証明書としては、受験日から2年以内のTOEFL iBTまたはIELTS（アカデミック・モジュール）のみ受け付けます。

選考方法

学内選考（書面審査・面接審査）
各部局から推薦された学生について、書面審査及び面接審査により東京大学本部での学内選考を行います。学業成績・語学能力・申請書の記述内容・面接結果等が総合的に考慮されます。

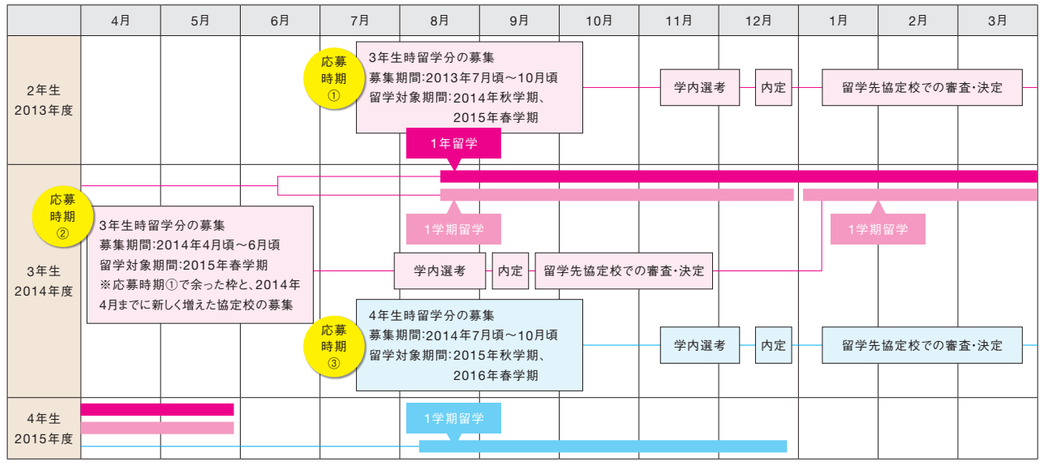
協定校での審査（書面審査）
学内選考を通過した学生は協定校が定める申請書類を改めて作成し、その書類をもって東京大学が留学先の協定校へ推薦し、協定校での審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定となります。

募集時期

募集時期①【7〜10月頃】
→翌年の秋季（8月〜10月）留学開始分・翌々年の春季（1月〜4月）留学開始分を募集
募集時期②【募集時期①の翌年の4月〜6月頃】
→翌年の春季（1月〜4月）留学開始分を募集
※第一回の募集分で余った派遣枠、及び募集時期②までに加わった新規協定校の募集

全学交換留学募集サイクル

※2013年度に学部2年生（2012年4月入学）の学生の場合の例です。
※2013年4月現在の予定であり、変更される場合があります。　※部局間の交換留学については部局ごとに異なります。



全学交換留学（国際本部担当）協定校一覧

（2013年2月1日現在）

国・地域	協定校	対象	派遣学生上限枠
台湾	国立交通大学	学部学生・大学院学生	5
台湾	国立台湾大学	学部学生・大学院学生	20
中国	北京大学	学部学生・大学院学生	10
中国	上海交通大学	学部学生・大学院学生	6
韓国	浦項工科大学校	学部学生・大学院学生	4
シンガポール	シンガポール国立大学	学部学生	6
チリ	チリ大学	学部学生・大学院学生	2
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部学生・大学院学生	10
カナダ	トロント大学	学部学生・大学院学生	6
アメリカ	イェール大学 Fox International Fellowship Program	大学院学生	若干名
アメリカ	プリンストン大学	学部学生・大学院学生	10
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部学生・大学院学生	6
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部学生・大学院学生	6
ドイツ	ケルン大学	学部学生・大学院学生	8
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学	学部学生・大学院学生	6
ドイツ	ベルリン自由大学	学部学生・大学院学生	4
オランダ	フローニンゲン大学	学部学生・大学院学生	4
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部学生・大学院学生	14
英国	シェフィールド大学	学部学生・大学院学生	10
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部学生・大学院学生	4

※実際の募集人数は、協定校との協議により決まるため、派遣学生上限枠より少なくなる場合があります。 ※協定校は今後増加する予定です。

全学交換留学（国際本部担当）応募状況

（2013年4月現在）

国・地域	大学	2011-2012年期留学 申請者数	内定者数	派遣者数 学部	派遣者数 大学院	2012-2013年期留学（1回目募集） 申請者数 第一希望	第二希望	内定者数	派遣者数 学部	派遣者数 大学院	2012-2013年期留学（2回目募集・春期留学分） 申請者数 第一希望	第二希望	内定者数	派遣者数 学部	派遣者数 大学院	2013-2014年期留学（1回目募集） 申請者数 第一希望	第二希望	内定者数	派遣者数
台湾	国立台湾大学	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	3	未定
アメリカ	イェール大学	7	4		1	3	1	3		1	募集なし					8	1	8	未定
カナダ	トロント大学	9	3	1	1	6	4	3	2	1	募集なし					17	8	3	未定
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	11	3	3	0	5	3	3	2	1	募集なし					8	11	6	未定
韓国	浦項工科大学校					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドイツ	ケルン大学					1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
フィンランド	ヘルシンキ大学					1	2	2	2	0	募集なし					2	3	3	未定
フランス	エコール・ポリテクニーク					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	未定
ロシア	サンクトペテルブルグ大学					0	0	0	0	0	3	0	3	1	2	1	1	2	未定
台湾	国立交通大学										0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国	上海交通大学										0	1	0	0	0	1	1	0	0
シンガポール	シンガポール国立大学										3	0	3	3	0	8	4	4	未定
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ=マクシミリアン大学															2	0	1	未定
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学															0	0	0	0
合計		29	12	4	4	16	10	12	6	4	6	1	6	4	2	51	32	31	0

※内定者=学内選考通過者　※派遣者=実際に留学した者

交換留学体験談

氏名: 田部淳ウイリアムさん
所属（渡航時）: 教養学部教養学科3年（※現在、外資系証券会社勤務）
渡航先大学名: ブリティッシュ・コロンビア大学
留学プログラム名: 全学交換留学
留学期間: 2011年9月～2012年4月

在日外国人や移民の問題に関心があったため、多文化主義を採用しているカナダ、中でも移民関係の授業が充実しているブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）への交換留学を志望しました。全てを英語でこなす交換留学は英語力向上の絶好の機会であると考えたのも理由のひとつです。世界有数の研究大学の一つであるUBCは国際色も豊かで、140以上の国から学生が集い、2011-2012期には500人以上の交換留学生を受け入れたとのことでした。

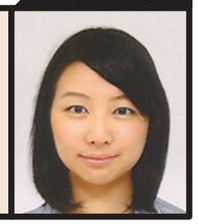
授業ついては、1学期あたり4科目を履修していました（UBCの一般学生のほぼ平均程度）。1科目につき授業が週に2～4回あり、授業における積極的な貢献が求められるため、自分で授業の文献を読む傍らグループのプロジェクトを進めなければならず、1科目あたりの負担は大きかったです。授業の中でグループプロジェクトが多かったので、文化的な背景が一人ひとり違う中で、いかにして円滑にコミュニケーションを行い、いかにして自分がグループに貢献するべきなのか身をもって考えさせられました。

語学面では、とにかく何か新しいことを始める、友達に何か誘われたら断らないで色々なことにチャレンジし、何か活動（スポーツやボランティアなど何でもよい）を一緒にやっていく中で英語を話せる友人を増やしていくことが語学面で慣れていく近道だと感じました。3か月を過ぎたあたりから少しずつ成長を実感できると思います（特にスピーキング）。また、普段授業に参加しているだけでは交換留学生だということがわからず教授側もサポートのしようがないので、オフィスアワー等を積極的に活用して教授・TAと積極的に話すことが大切です。レポートの書き方など、学習を円滑に進めるヒントを与えてくれます。

留学を通して、欧米圏の大学でも自分の力でなんとかやっていける、という自信がつきました。留学をすることには本当に多くの良い点があると考えていたし、実際帰国後も留学してよかった、と感じています。留学で得られることは、単純な知識や語学力にとどまりません。ただ、「何のために留学したいか」ということを出国前に突き詰めて考えることは大切なことでしょう。そこで出した結論は、留学中に悩んだ時にきっと心の支えになってくれると思います。

交換留学体験談

氏名: 山﨑奈都子さん
所属（渡航時）: 法学部第2類（公法コース）4年（※現在、コンサルティング会社勤務）
渡航先大学名: トロント大学
留学プログラム名: 全学交換留学
留学期間: 2011年9月～2012年4月



国際人権法を学びたい、という意思が昔から強くあり、欧米の大学の方が、国際法関連の授業、ゼミが充実していると感じたこと、また国際人権法や人道法などの分野においては、英語文献の方が遥かに発達しているため、それらの文献に容易にアクセスできる環境にも惹かれたことから、トロント大学のロースクールFaculty of Lawに留学しました。

アメリカと同様に、カナダは法学部がなく、ロースクールには学部を卒業してからしか入学できません。留学生以外は他学部の卒業生で、出身地も多様、授業によってはその内容に関連するNGOや政府機関で仕事をしてから入学している学生もいるため、多様な視点からの意見が提供され、興味深かったです。留学生はロースクール全体で、10～15名ほどしかおらず、履修する授業も似通っているため、お互い助けあい、仲良くなりました。またロースクールは大学の他の学部や大学院から非常に独立しており、学生同士の仲が良く、イベントも数多く開催されていたため、留学生以外の現地の学生とも大変仲良くなりやすい環境でした。各授業も10～15名ほどのクラスのため、教授がきちんと名前を覚えていてくれて、留学生を気にかけてくれるなど、教授と個人的な関係も築くことができ、大変質問や相談がしやすい環境でした。

留学の一番の収穫は、自分がずっとしたかった勉強ばかりをできたこと、そしてその分野を将来の仕事として真剣に考えている人とともに学べたことでした。また、カナダやアメリカだけでなく、様々な国の判例を読む機会があり、それらの判例を通して、それぞれの社会が抱える問題を考える、という視点が非常に新鮮で、勉強になりました。

留学をどれほど充実したものにするかは、自分自身にかかっています。授業時間が短く、日本での人間関係や課外活動から解放される部分、自由時間がたくさんあります。留学先でしかできないことは何なのか、自分は何をしにきているのか、という点を確認しながら、毎日生活をしないと、留学期間はすぐに終わってしまいます。ただ、あまり自分を追い込みすぎると、精神的に不安定にもなりやすいと思うので、適宜息抜きをしつつ、楽しんで下さい!

2. 東京大学交換留学協定校一覧（全学・部局間）

※2013年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載している。
　ただし、覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があることや掲載されていても当該年度に交換留学を実施していない場合もあるため注意すること。
※上限枠欄に記載されている数は最大枠であり、実際の募集枠は各公募の際の協定校との調整により決まる。従って、実際の募集枠とは異なるので注意すること。
※（*）は全学学生交流覚書の上限枠を表す。
※担当部局ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当部局に確認すること。

国際本部担当（全学交換留学）

国・地域	協定校	対象	上限枠
台湾	国立交通大学	学部/院	5*
台湾	国立台湾大学	学部/院	20*
中国	北京大学	学部/院	10*
中国	上海交通大学	学部/院	6*
韓国	浦項工科大学校	学部/院	4*
シンガポール	シンガポール国立大学	学部	6*
チリ	チリ大学	学部/院	2*
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院	10*
カナダ	トロント大学	学部/院	6*
アメリカ	イェール大学 Fox International Fellowship Program	院	若干名*
アメリカ	プリンストン大学　※学部学生6、大学院学生4	学部/院	10*
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院	6*
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院	6*
ドイツ	ケルン大学	学部/院	8*
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学	学部/院	6*
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院	4*
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院	4*
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院	14*
英国	シェフィールド大学	学部/院	10*
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院	4*

各部局で担当するもの

国・地域	協定校	対象	上限枠
法学政治学研究科・法学部			
中国	北京大学法学院	院	1
韓国	ソウル大学校法科大学・法学専門大学院	院	1
アメリカ	ハーバード・ロースクール　※受入のみ、派遣なし	院	2
医学系研究科・医学部			
台湾	国立台湾大学医学部	学部	2
台湾	台北医学大学医学部	学部	2
タイ	マヒドン大学　※休止中	学部/院	2
アメリカ	ジョンズホプキンス大学医学部	学部/院	2
アメリカ	オハイオ州立大学医学公衆衛生学部　※休止中	学部/院	3
アメリカ	ペンシルバニア大学医学部	学部/院	3
アメリカ	ミシガン大学医学部	学部/院	3
アメリカ	ワシントン大学医学部　※休止中	学部/院	5
アメリカ	コーネル大学医学部	院	3
ドイツ	ミュンヘン大学	学部	2
スウェーデン	イエテボリ大学	学部/院	3
工学系研究科・工学部			
中国	浙江大学	学部/院	5*
中国	清華大学	学部/院	5*
中国	西安交通大学	学部/院	5
中国	大連理工大学	学部/院	5
中国	同済大学院　※新領域と担当	学部/院	5
韓国	延世大学	学部/院	5*
韓国	韓国科学技術院工科大学/生命科学技術大学	院	5
韓国	高麗大学工学部	学部/院	2
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院	5
シンガポール	ナンヤン工科大学工学部	学部/院	3
タイ	アジア工科大学院	院	5*
タイ	チュラロンコン大学	学部/院	3*
タイ	タマサート大学国際工学部（SIIT）	学部/院	5
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院	3
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院	5
オーストラリア	南オーストラリア大学情報科学技術工学環境学部	院	2
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院	2
ニュージーランド	カンタベリー大学工学部	学部/院	2
オーストリア	ウィーン工科大学	院	5
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院	5
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院	3
フィンランド	アールト大学（旧ヘルシンキ工科大学）	学部/院	2
フランス	ピエール・エ・マリー・キューリー大学（パリ第6大学）工学部	学部/院	2
フランス	エコール・セントラル・パリ	学部/院	5
フランス	エコール・デ・ミン・ド・ナント（Ecole des Mines de Nantes）	学部/院	2
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校	学部/院	5
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院	5
フランス	エコール・デ・ポン・パリテク	学部/院	3
フランス	航空宇宙高等学院（ISAE）	学部/院	3
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院	5*
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院	5
ドイツ	ミュンヘン工科大学	学部/院	5
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院	2
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院	3
オランダ	トエンテ大学	学部/院	1
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学	学部/院	2
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院	2
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院	2
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院	3*
スウェーデン	ルンド大学工学部	学部/院	5
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	学部/院	5
スウェーデン	ルレオー工科大学　※修士のみ対象	院	5
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※情報理工と担当	学部/院	2
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ（ETH）	学部/院	5
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ（EPFL）	学部/院	3
スイス	チューリッヒ大学理学部・経済学部　※情報理工と担当	院	5
英国	インペリアルカレッジロンドン	院	3
英国	ダーラム大学ビジネススクール・地理学部　※新領域と担当	学部/院	3
EU	"ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、サンリュック大学、リスボン工科大学、シントルーカス大学"(AUSMIP) ※修士のみ対象　※新領域と担当	院	10
その他	"シントルーカス大学建築及び都市計画学部、フランス国立パリ建築大学ラビレット校、リスボン工科大学建築学部、ミュンヘン工科大学建築学部Building Realization & Informatics講座、ソフィア建築・土木・測地学大学、ソウル大学校工科大学建築学科・建築工学科、成均館大学工学部建築工学科・u-Cityデザイン工学科、メルボルン大学建築・設計・計画学部、オークランド大学創造芸術産業研究所建築・都市計画学部"（AUSMIP+）※博士のみ対象　※新領域と担当	院	注
人文社会系研究科・文学部			
中国	山東大学文史哲研究院・韓国研究中心	学部/院	1
中国	香港中文大学文学院	学部/院	5
中国	北京大学歴史学系　※総合文化と担当	院	1
インド	デリー大学	院	1*
韓国	ソウル大学校人文大学	学部/院	2
韓国	高麗大学校	学部/院	2
韓国	釜山大学校人文大学	学部/院	2
イラン	テヘラン大学	院	5*
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール	院	1*
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール（リヨン校）	院	1
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他）　※総合文化と担当	学部/院	5
イタリア	ピサ高等師範学校	院	2*
イタリア	フィレンツェ大学	院	3*
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院	5*
英国	マンチェスター大学人文学部	学部	若干名
理学系研究科・理学部			
韓国	ソウル大学校自然科学大学	院	5
カナダ	ラバル大学光学・フォトニクス・レーザーセンター	院	5
ドイツ	イェーナ大学（The Institute of Optics and Quantum Electronics）	院	5
農学生命科学研究科・農学部			
台湾	国立台湾海洋大学	院	3
台湾	中興大学獣医学院	院	3
台湾	中興大学農業自然資源学院	院	3
バングラデシュ	チッタゴン大学	学部/院	3
中国	南開大学	学部/院	5*
中国	四川農業大学	学部/院	3
中国	中国農業大学	学部/院	2
中国	東北林業大学	院	2
中国	東北農業大学	院	2
中国	南京農業大学	学部/院	3
中国	南京林業大学	院	2
中国	北京林業大学	院	2
中国	天津農学院	院	2
インドネシア	パジャジャラン大学	学部/院	3*
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	学部/院	2
インドネシア	ボゴール農科大学	学部/院	3
インドネシア	ムラワルマン大学	院	3
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院	3
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院	3
韓国	釜慶大学校環境海洋大学	学部/院	3
ラオス	ラオス国立大学計画策定・国際協力局	学部/院	3
モンゴル	モンゴル国立農業大学	学部/院	3
スリランカ	ルフナ大学	学部/院	3
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部	院	2
タイ	コンケン大学農学部	院	3
ベトナム	ノンラム大学	院	3
ベトナム	ハノイ農科大学	院	3
ニュージーランド	マッセイ大学	院	3
フィンランド	アールト大学（旧:ヘルシンキ工科大学）	院	2
フランス	アグロパリテック（旧:パリーグリニョン国立農学院）	院	5
ドイツ	カールスルーエ工科大学	院	5
ポーランド	クラクフ農科大学	院	2
スウェーデン	スウェーデン農科大学	院	3
英国	エジンバラ大学獣医校	院	3
経済学研究科・経済学部			
スウェーデン	ストックホルムスクール・オブ・エコノミクス	学部/院	2
フランス	アッシュ・ウ・セ経営大学院	学部/院	5
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス　※博士課程のみ	院	2
総合文化研究科・教養学部			
中国	南京大学国際合作交流処　※AIKOM	学部	5
中国	復旦大学外事処　※AIKOM	学部	5
中国	北京大学国際合作部　※AIKOM	学部	5
インドネシア	ガジャマダ大学　※AIKOM	学部	5
韓国	ソウル大学校（人文大学,他）　※AIKOM	学部	5
マレーシア	マラヤ大学　※AIKOM	学部	5
フィリピン	フィリピン大学　※AIKOM	学部	5
シンガポール	シンガポール国立大学人文社会学部　※AIKOM	学部	2
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校付属人文社会科学大学 ※AIKOM	学部	5
チリ	チリ・カトリック大学　※AIKOM	学部	5
エジプト	カイロ大学人文学部　※AIKOM	学部	2
カナダ	トロント大学文理学部　※AIKOM	学部	2
アメリカ	スワァスモア大学　※AIKOM	学部	5
アメリカ	ミシガン大学教養学部　※AIKOM	学部	2
アメリカ	ワシントン大学教養学部　※AIKOM	学部	2
アメリカ	ジョンズホプキンス大学クリーガー教養学部　※AIKOM	学部	2
オーストラリア	シドニー大学（人文社会科学部、他）　※AIKOM	学部	5
オーストラリア	モナシュ大学　※AIKOM	学部	5
オーストラリア	メルボルン大学人文学部　※AIKOM	学部	5
ニュージーランド	オークランド大学　※AIKOM	学部	2
ニュージーランド	オタゴ大学　※AIKOM	学部	5
フランス	国立政治科学研究院・パリ政治学院（通称シアンスポ） ※AIKOM	学部	2
フランス	グルノーブル大学コンソーシアム　※AIKOM	学部	2
フランス	ストラスブール大学　※AIKOM	学部	2
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学　※AIKOM	学部	1
アイルランド	トリニティカレッジ ダブリン大学 人文・人間科学・社会科学部 ※AIKOM	学部	2
イタリア	ローマ大学 ラ・サピエンツア 東洋研究学部 ※AIKOM	学部	1
スウェーデン	ウプサラ大学　※AIKOM	学部	2
スイス	ジュネーヴ大学　※AIKOM	学部	2
英国	ウォリック大学　※AIKOM	学部	2
台湾	国立政治大学台湾史研究科	学部	1
台湾	国立政治大学歴史学系	学部	1
中国	北京大学歴史学系　※人文社会系と担当	院	1
韓国	韓国外国語大学校東洋語大学・日本語大学	学部/院	2
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校付属人文社会科学大学	学部/院	5
フランス	パリ第7・ディドロ大学	学部/院	5*
フランス	パリ第8大学	学部/院	5*
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院	2
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学歴史学・哲学・社会科学部	学部/院	5
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他）　※人文社会系と担当	学部/院	5
アメリカ	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	学部	5
ロシア	ロシア国立人文大学	学部/院	1*
薬学系研究科・薬学部			
中国	瀋陽薬科大学	院	3
アメリカ	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院	
ドイツ	ケルン大学化学部	院	2
オランダ	ライデン大学	院	5*
スウェーデン	イエテボリ大学S.A.アカデミー	院	2
数理科学研究科			
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン数学科	院	5
新領域創成科学研究科			
中国	同済大学院　※工学系と担当	院	5
インド	インド工科大学カンプール校	院	5
韓国	韓国科学技術院（KAIST）工学研究科	院	5
ブラジル	カンピナス大学	院	5
ナイジェリア	イバダン大学	院	2
南アフリカ共和国	ケープタウン大学工学・構築建築部	院	2
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	院	3
オーストリア	ウィーン工科大学	院	2
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校	院	3
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン	院	2
ドイツ	ヴュルツブルグ大学生命科学研究科	院	5
イタリア	ローマ大学 ラ・サピエンツァ 工学部	院	2
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ（ETH）	院	5
英国	インペリアルカレッジロンドン	院	5
英国	ブリストール大学理学部	院	5
英国	ダーラム大学ビジネススクール・地理学部　※工学系と担当	院	3
EU	"ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、サンリュック大学、リスボン工科大学、シントルーカス大学"(AUSMIP) ※修士のみ対象　※工学系と担当	院	10
その他	"シントルーカス大学建築及び都市計画学部、フランス国立パリ建築大学ラビレット校、リスボン工科大学建築学部、ミュンヘン工科大学建築学部Building Realization & Informatics講座、ソフィア建築・土木・測地学大学、ソウル大学校工科大学建築学科・建築工学科、成均館大学工学部建築工学科・u-Cityデザイン工学科、メルボルン大学建築・設計・計画学部、オークランド大学創造芸術産業研究所建築・都市計画学部"（AUSMIP+）※博士のみ対象　※工学系と担当	院	注
情報理工学系研究科			
オーストリア	ウィーン工科大学（VUT）	院	2
デンマーク	コペンハーゲン大学理学部（DIKU）	院	2
デンマーク	デンマーク工科大学（DTU）	院	3
フィンランド	アールト大学（旧ヘルシンキ工科大学）	院	3
フランス	エコール・スューペリュール EA（ESIEA）	院	5
フランス	エコール・セントラル・パリ	院	5
フランス	エコール・デ・ミン・ド・ナント（Ecole des Mines de Nantes）	院	5
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール・カシャン（ENSC:カシャン高等師範学校）	院	2
ドイツ	ミュンヘン工科大学（TUM）	院	3
ドイツ	ダルムシュタット工科大学（TUD）	院	2
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学（NTNU）	院	5
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※工学系と担当	院	2
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ（ETH）	院	5
スイス	チューリッヒ大学自然科学部・経済学部（UZH）　※工学系と担当	院	5
情報学環・学際情報学府			
韓国	ソウル大学校社会科学大学コミュニケーション学科	院	6
公共政策学連携研究部・教育部			
中国	北京大学 国際関係学院	院	5
韓国	ソウル大学校 国際大学院	院	5
シンガポール	シンガポール国立大学ﾘｰ・ｸｱﾝｭｰ公共政策大学院（LKY-SPP）	院	3
アメリカ	コロンビア大学国際公共政策大学院（SIPA）	院	3
フランス	パリ政治学院（SciencesPo.）	院	3
ドイツ	ハーティー・スクール・オブ・ガバナンス（HSoG）	院	3

注:EU側5校とAsia-Pacific側8校との間で4年間で35名

3. 3ヶ月未満の留学（大学を通じて応募するもの）

3ヶ月未満の留学のメリット

3ヶ月未満の留学には以下のようなメリットがあります。

①期間が短く、費用が抑えられる
②東京大学での授業・課外活動・就職活動等への影響が低い
③短期でも海外文化の体験、海外学生との交流、語学力・学力向上が可能
④交換留学・大学院留学など長期の留学への準備となる
→世界の大学生と切磋琢磨することで、世界における自分の位置を知り、今後の学生・社会人生活のモチベーションに!

3ヶ月未満の留学の種類

3ヶ月未満の留学プログラムには、大まかに以下のような種類があります。

①特別に開講される、語学前提のプログラム（Summer Program, Summer Schoolなど）

海外の大学生向けに特別に作られたプログラム。英語圏の学生を含む世界の大学生とともに専門分野を学習するため、高い語学力が必要。

例）IARU Global Summer Program（IARU GSP）

IARU（International Alliance of Research Universities:国際研究型大学連合）に加盟する世界トップクラスの10大学によるプログラム。（加盟校:東京大学、オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イェール大学）

IARU加盟各校において毎年6月から8月の間に2週間～5週間程度の期間で開催。各校が相互に学生の派遣・受入を行い、各大学の教授陣が、加盟各校から選抜される学生のために集中的なサマーコースを実施する。

学内選考があり、奨学金・授業料の減免等を受けられる機会が多い。現状、東京大学で最大の参加者数を持つ留学プログラム（2012年は38名が参加。）

②大学の集中講義を開放して実施される、語学前提のプログラム（Summer Session, Summer Schoolなど）

実施校の集中講義を他校の学生にも開放して実施される。現地の正規学生が卒業に必要な単位取得のため履修する授業を受講するため、高い語学力が必要。多岐にわたる分野から授業を選択でき、世界の一流校で集中講義を受講できる。

例）Yale Summer Session（イェール大学）、Berkeley Summer Sessions（UCバークレー）

東京大学の学生向けの特別枠がある（授業料割引、手続きのサポートなど）。

③その他の語学配慮型のプログラム

英語が母語でない海外大学の学生向けに特別に作られたプログラム。ある程度の語学力は必要だが、英語が母語でない学生を対象としたもの。語学学習を目的としたもの、専門分野の学習を目的としたもの等がある。2013年夏より、東京大学は海外大学との協力による本学学生向けのプログラムを準備中。

例）English Language Institute（イェール大学）、Summer English Language Studies（UCバークレー）

上記大学のSummer Session内で開講される英語学習のプログラム。東京大学の学生向けの特別枠がある（授業料割引、手続きのサポートなど）。

留学経験学生の声

「サマープログラムを通して、環境経営を学び、アメリカのトップスクールの大学生活を体験し、そしてアメリカの文化や歴史はもちろんのこと、参加学生の出身国についても深く学ぶことができました。このプログラムで世界中にできた優秀な友人は私の一生の宝だと思っています。もともと大学卒業後にアメリカの大学院で環境科学を学びたいと思っていたのですが、このサマープログラムを経てさらに気持ちは強くなり、かつそこでの生活をより具体的に想像することができるようになりました。いい意味で幻想が無くなり、ただトップスクールに留学することがゴールではなく、そこで何を学び、どう過ごし、そして卒業後にどのように社会に貢献していけるかが重要であると考えるようになったからです。」

（イェール大学IARU GSP 農学部4年）

「もし今回の私のように、まったく海外経験がない人がIARU GSPへの参加を考えているとしたら、とりあえず申し込んでみることをおすすめします。1ヶ月の留学では何も得られないという人もいますが、今まで海外経験のなかった私はとても密な時間を過ごすことができ、刺激を受けることができました。まず毎日英語を使うので、英語に対する抵抗がなくなりますし、どういう力が自分に足りないか身をもって知ることができます。1ヶ月の間では十分にその力を伸ばせなくても、日本に帰ってから集中的に鍛えればいいのです。また海外の学生と交流することで、固定観念を取り払って、自分の視野を外に広げることができます。」

（北京大学IARU GSP 薬学部4年）

年間募集サイクル

3ヶ月未満の留学の場合、夏季（6月～8月頃）に行われるプログラムが多くなっています。
夏季のプログラムは、1～2月頃に募集されるのが一般的ですが、4～6月まで応募可能なものもあります。
募集期間が短く、締切が早いプログラムも多いため、参加可能なプログラムの選択肢を広げるには、TOEFL・IELTSを受験し、1月頃までにスコアを所持しておくことが大切です。

一般的な夏季の留学プログラム（学内選考が行われるもの）の募集サイクル

※以下の2つの募集サイクルは代表的な例で、これに当てはまらないプログラムもあります。

～12月まで	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
情報収集 語学学習 語学試験の受験	学内説明会実施	募集時期① 1～2月頃 （IARU GSP・イェールサマーなど） 情報収集・申請書類作成 2月中旬頃学内応募締切		学内選考（書面） 学内選考通過者を派遣先大学へ推薦 派遣先大学での審査審査 審査結果の連絡	留学開始までの手続き （宿舎・ビザ・保険等）、 事前学習 派遣前オリエンテーションの実施		プログラム開講			報告書類提出
					募集時期②4～6月頃 （UCSD、シェフィールド大学、台湾大学、香港大学など） 情報収集・申請書類作成 5～6月頃学内応募締切		学内選考（書面） 留学開始までの手続き（宿舎・ビザ・保険等） 事前学習 派遣前オリエンテーションの実施		プログラム開講	

3ヶ月未満の留学 プログラム一覧（東京大学本部を通じて応募可能なプログラム）

2013年4月現在

プログラム名	開催地	時期	費用（授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	募集開始	応募締切	備考
IARU Global Summer Program（IARU GSP）	世界7カ国	6～8月の2～5週間	2万円～50万円	40名程度	高（TOEFL80～100目安）	1月	2月	世界トップレベル10大学での夏季留学プログラム
イェール大学サマープログラム（Yale Summer Session）	アメリカ	7/8～8/9	7,500～8,500ドル	15名	高（TOEFL100必須）	1月	2月	イェール大学の夏季集中講義。学部学生対象
イェール大学サマープログラム（English Language Institute）	アメリカ	7/1～8/9	7,500～8,500ドル		低（TOEFL20～46目安）	1月	2月	イェール大学の英語学習プログラム
Berkeley Summer Sessions（Regular Summer Sessions courses）	アメリカ	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	制限なし	高（TOEFL79～80、TOEIC685必須）	2月	4～6月	UCバークレーの夏季集中講義
Berkeley Summer Sessions（Summer English Language Studies）	アメリカ	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	制限なし	低（要件なし）	2月	4～6月	UCバークレーの英語学習プログラム
IARU Global Cross Disciplinary Tournament（IARU GXT）	中国（2013年）	7/10～7/19	無料	5名	高（TOEFL80～100目安）	2月	3月	学生チームによる調査プロジェクトなど
スウェーデン王立工科大学 Stockholm Summer School	スウェーデン	6/17～7/5	3,500 SEK ※授業料免除、宿泊費のみ	4名	高（TOEFL90必須）	2月	3月	理工系対象
国立台湾大学 Summer + Programs	台湾	7～8月の4or6週間	1,860ドル ※授業料不徴収	4名	高（TOEFL iBT 79-80、TOEIC 800目安）	3月	4月	中国語・文化学習プログラム。研究室でのインターンシップコースもあり
ケルン大学 Cologne Summer School on Media Sciences	ドイツ	8/2-23	授業料免除、宿泊費はケルン大学が負担	3名	高（TOEFL90必須）	3月	4月	使用言語は英語
*UC San Diego Future Global Leaders Program	アメリカ	8/5～8/16	32万円	20名程度	中（TOEFL60～80目安）	4月頃	5～6月	英語学習＋講義受講の東大生向けプログラム
*シェフィールド大学 サマープログラム	英国	8月の2週間程度	未定	20名程度	中（TOEFL60～80目安）	4月頃	5～6月	英語学習＋講義受講の東大生向けプログラム
*国立台湾大学 サマープログラム（グローバルな文脈で台湾を理解する）	台湾	8月の2週間程度	未定	12名	中（TOEFL60～80目安）	4月頃	5～6月	台湾でのフィールドワーク＋講義受講の東大生向けプログラム
*香港大学 サマープログラム（香港を通じて理解するアジアと日本）	香港	8月の2週間程度	未定	20名	中（TOEFL60～80目安）	4月頃	5～6月	香港でのフィールドワーク＋講義受講の東大生向けプログラム
ストックホルム 国際青年科学セミナー	スウェーデン	12月の1週間	国際科学技術財団が負担	2名	高（TOEIC700以上）	5月	6～7月	ノーベル賞授賞式への出席のほか、世界の学生と交流
パリ政治学院（Science Po）European Studies Programme	フランス	2～3月の4週間程度	4,000ユーロ	5名程度	高（TOEFL90必須）	11月	11月	使用言語は英語。日本の学生向けプログラム

※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。　※費用については、原則として航空賃・生活費等を除いた、授業料と宿泊費の目安を掲載しています。　※（*）印のものは2013年4月現在、開催に向けて調整中のため、各項目は暫定的な情報です。

3ヶ月未満の留学体験談

氏名: 木村 響さん
所属(渡航時): 法学部 第1類(私法コース) 3年
渡航先大学名: ケンブリッジ大学
留学プログラム名: IARU Global Summer Program
留学期間: 2012年7月～2012年8月(4週間)

ケンブリッジ大学のIARU Global Summer Programでは、毎日午前中と夕方に、歴史、文学、科学、インテリジェンス(情報・知能)についての授業(同時期開講の一般向けサマースクールと合同)を受講しました。また、午後にはGSP学生向けのディスカッション(週2回)、およびスーパーヴィジョン(週1回)が行われました。スーパーヴィジョンとは、3人一組で特定のテーマについてきめ細かな指導を受ける個別授業のことで、毎週エッセイ(2000-3000wordsの小論文)を提出し、そのテーマについて指導教官を交えてディスカッションすることを通してより深い理解を目指す、ケンブリッジ大学伝統の指導方法です。

スーパーヴィジョンはこのプログラムの中で最も厳しく、それと同時に実力養成に大きく貢献する授業でした。国際政治に関する4つのエッセイの作成を通じて、インプットの初期段階からアウトプットの最終形を意識して情報を体系化する、という訓練を積むことができ、毎週少しずつではありますが情報整理の要領が良くなりました。最大の成果は、ある特定のトピックに関して短期間のリサーチを経て問題の所在を把握し、それを理解・解明するための「問い」を自力で立てる術を学んだことです。「アウトプット力を高める」という当初の目標を常に意識して課題に取り組んでいた甲斐がありました。

私が参加したコースにはIARU加盟大学から6カ国14名が参加しました。約半数が法学もしくは政治学専攻でしたが、分子生物学や文学、イスラム史学、コミュニケーション学を専攻している人もおり、ディスカッションでは多くの異なる視点から意見が出てきて面白かったです。多様なバックグランドを持つ学生とカレッジで1か月間寝食を共にし、各国の国民性や移民問題等の社会問題について話し合うなど、仲良くなるだけではなく、学習面でもお互いに刺激しあい、高めあう関係を築くことができました。

今回のプログラムは、私にとって今までで最も長い海外での学習経験でした。本気で学び、ケンブリッジでの生活を満喫する中で日本ではできない貴重な経験をたくさん積むことができました。今後はこの経験を糧に、自分の専攻と他分野とのかかわりにも関心を持ちながら勉学を進めていきたいと思います。

3ヶ月未満の留学体験談

氏名: 河上 友紀さん
所属(渡航時): 経済学部 経済学科 3年
渡航先大学名: シンガポール国立大学
留学プログラム名: IARU Global Summer Program
留学期間: 2012年6月～2012年7月(3週間)

今回私が参加したのは"Southeast Asian Cosmopolitan Urbanism"というコースで、座学よりも実践、マラッカでのフィールドワークに重点を置いていました。具体的には5、6人のグループに分かれて、それぞれ与えられた地域に5日間毎日通って地元の人々にインタビューしたりしながら、その地域性、観光地というフレームにはめられた、世界遺産都市マラッカについて理解を深め、その成果をシンガポール国立大学の博物館で展覧会という形で発表するというものです。展示物も自分たちの手でフィールドワークの過程で集めました。普通の旅行や留学ではなかなか得られない、ある特定の地域を集中的に研究し、地元の人々と交流するという体験ができました。

参加したコースは「コスモポリタニズム」がテーマだったので、国際性と地域性、異文化共存など国際理解に関して重要なことを、折に触れて考えさせられました。そもそもIARUに加盟している世界中の各大学から生徒が集まっているので、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど参加者自体が多様性に富んでいて、彼らと自国の文化、慣習についてお互いに話すことも大変面白く、刺激的でした。

シンガポールはアジアの経済の中心地でもあり、中国系、マレー系、インド系など様々な人種が集まっていて、街にも大学にも至るところに国際的な雰囲気が漂っており、アジアへの興味もいっそう高まりました。自戒の意も込めて、日本ももっと国際感覚を養わなければという危機意識も感じました。

今回の経験を通して以前から興味のあった留学への思いが強まり、長期留学への後押しとなりました。優秀な学生たちと高度な内容をディスカッションするにはまだ慣れておらず、英語力の面ではまだまだというのが正直な感想ですが、英語力と話す内容の双方のさらなる向上を目指したいと思いました。また、今までは英語圏への留学しか考えていませんでした。しかしシンガポールでは華人が大多数を占めるため、街でも中国語を聞く機会が多く、北京大学の学生とは中国語で話すこともあり、第二外国語として学んでいる中国語も英語と一緒に学べるところを留学先として視野に入れるようになりました。今回の短期留学は様々な面でものの見方が変わり、大変貴重な体験となりました。

3ヶ月未満の留学体験談

氏名: 黒田 知史さん
所属(渡航時): 教育学研究科 学校教育高度化専攻 修士1年
渡航先大学名: イェール大学
留学プログラム名: English Language Institute
留学期間: 2012年6月～2012年7月(6週間)

金額の面でも労力の面でもコストのかかる留学でしたが、率直に参加して良かったと感じています。

留学の成果としてまず挙げられることは、価値観を広げることができたということです。それは、様々な国から文化・経済・政治など異なるバックグラウンドを持つ学生が集まり語り合う機会を多く持ったこのプログラムでこそ得られるものだったと思います。

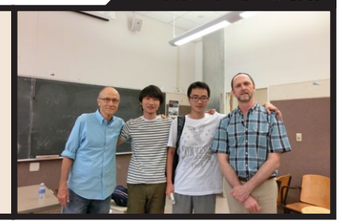
また、外国人や外国に対して抱いていた心理的な壁を取り除くことができたことも大きな成果でした。他国の人が自分とは違う考え方を持っていると感じることは度々ありましたが、それ以上に多くの感情や経験を共有できる喜びを感じました。スピーキングの授業の中で、ゲイカップルの結婚の是非についてのディスカッションが行われた際には、宗教や文化、世論の差が各生徒の基本的な立場に影響を与えていましたが、皆で子供の心配や愛することの自由を熱く語ったことは印象深かったです。

さらに、英語力の面でも予想以上に成果が上がったと感じています。出発前は6週間だけではほとんど何も変わらないけれども、話す度胸くらいは付けてこようと思っていました。もちろん流暢に思ったことを話すことができるようになったわけではないですが、学生として海外で生活するくらいには力がついたように思います。毎日9時から3時半まで授業があり、さらに3時間程度の宿題をこなし、日本人の比率も少なく、英語に集中できる環境が用意されていたことが上達の大きな要因だったと思います。また、放課後や週末、食事の時間も必然的に他国の生徒といる機会が多かったため英語を使うことに慣れることができました。

最後に自戒を込めて述べておきたいのは、留学経験は今までの自分の経験をベースに内省されるべきであるということです。家族、サークル、職場、学校、地域、国家一様々に重なり合うコミュニティの中に私たちは存在しており、そのそれぞれに違いがあり学ぶべきことがあるはずです。身近で綿密な関係性の中でこそ微かな差異に気付くこともあるし、大きな枠組みから見て初めて気づくこともあります。今までに経験してきたものの上に留学での経験を重ね合わせることによって、より豊かな視野が培われるのだと思います。

3ヶ月未満の留学体験談

氏名: 菊地 建人さん
所属(渡航時): 工学部 航空宇宙工学科 4年(現在、工学系研究科航空宇宙工学専攻修士1年)
渡航先大学名: カリフォルニア大学バークレー校
留学プログラム名: Summer English Language Studies
留学期間: 2012年7月～2012年8月(3週間)



私は教養学部時代からアメリカ大学院への進学を志望していました。今回短期留学に踏み切った理由には実際に出願の準備を始める前に本当にアメリカでいいのか考える材料が欲しかったこと、また学部という若いうちに留学したかったことがあります。理系の4年生ですので大学院の入試が8月の後半にあり、直前まで留学などしていても大丈夫なのかとも考えました。結局、せっかくならば留学もして入試にも合格しようと欲張り、実際に応募するに至りました。今思えばそのようにして正解だったと思います。

現地ではSummer English Language Studiesの英語学習コースを受講しました。集中コースだったので午前と午後に授業があり、毎日宿題が出され、その宿題についてディスカッションするというかなりハードな授業でした。最終週には朝方まで宿題に追われていたこともありました。ただ、やることをやれば評価してもらえます。僕の場合予習・復習や課題を真面目にこなしていたため、A+の成績をいただきました。総じてハードなカリキュラムな分、授業の先生が全面的にサポートしてくださるので安心して勉強することができました。

各国の仲間と話す中でいろいろと考えさせることもありましたし、改めて自分の小ささにも気付くこともできました。大学生として行かなければ分からないことが幾重にも重なった、言葉にできないような感覚を得て帰ってきたので、正直なところここに書けることは多くありません。ただ一つ言えるのは、日本人がアメリカに留学する際、初めにカリフォルニアを見ておいて損はないということです。カリフォルニアはしばしば「人種のるつぼ」だとか「西の玄関」だとかと比喩されますが、なかでもアジア人が多く、それに付随する様々な問題も残されたままなのが現状です。「アメリカに行った、楽しかった」では済まされないこともあるのだな、と実感できます。

英語が不安、という人こそ是非Berkeleyに行ってください。意外と自分でやっていけるのだなということに気付くはずです。その一方でいくら英語に自信のある人でも自分に足りないものにもきっと気付くと思います。それは一人の学生として海外の大学に通うことで初めて気付くことのできるもので、簡単に行ける海外旅行や一人旅とは確実に異なった経験です。その点Berkeley Summer Sessionsはまたとない貴重なチャンスですので、少しでも興味のある方には強くお勧めしたいと思います。

4. その他の留学（個人応募での留学など）

これまで紹介した、交換留学・3ヶ月未満の留学（大学を通じて応募するもの）以外の方法で在学中に留学する場合は、基本的に、大学を通さず、個人応募で留学することになります。その場合、手続きなどをすべて自己責任で進めることになり、費用面なども含め十分な準備が必要となりますが、東京大学を通じて応募できる大学以外にも留学先を選べるというメリットがあります。

原則として授業料等の費用は全て自己負担となります。ただし、中には奨学金付プログラムや授業料が割引となるプログラムもあります。また、別途奨学金に応募することも可能です。

なお、UCバークレーに1学期～1年の間留学が可能なIIS-ISPについては、大学を通じて応募することが可能です。

■個人応募で留学する場合の注意事項

1. 十分な情報収集
大学を通さない個人応募での参加となるため、手続き等をすべて自己責任で進めることになります。期間やプログラムの内容、費用、参加条件など予め十分な情報収集を行ってください。留学斡旋業者を利用する場合は、自分自身の責任と判断により、自分の目的に合った業者・プログラムを選んでください。参考:日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」
http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_04.html

2. 東京大学での所属学部・研究科等への確認・相談
参加手続きを進める前に、プログラム参加時の東京大学での所属学部・研究科等の担当部署に相談し、海外での留学プログラム等に参加する場合の留意点の説明を十分受け、必要な手続きについて確認してください。また、指導教員等にも事前に十分相談するようにしてください。

3. 留学中の安全確保と危機管理
東京大学Go Globalウェブサイトの「安全と危機管理」のページや、『海外渡航危機管理ガイドブック』を熟読の上、安全の確保に努めてください。

その他の留学プログラム（個人応募のプログラムなど）の例

1学期～1年のプログラム

プログラム名	開催地	時期	費用（授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	応募締切	備考
UC Berkelry Institute of International Studies International Study Program（IIS-ISP）	アメリカ	8月-5月	20,000ドル/semester	5名	高（TOEFL83）	4月	東京大学を通じて応募。Political Science関連の授業を履修可能
イリノイ大学 小山八郎記念奨学留学生	アメリカ	8月-5月	授業料免除	4名	高（TOEFL79）	10月	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教養学部への留学
ペイツ大学 平沢和重奨学基金	アメリカ	9月-5月	授業料・寄宿舎費用を全額支給	1名	高	12月	大学1～3年生を優先
クィーンズ大学 高円宮記念クィーンズ大学留学奨学金プログラム	カナダ	秋～春の1学年	約30,000カナダドルを支給	不明	高（TOEFL88）	3月	4月より2年生または3年生となる日本人学生対象
Harvard University Visiting Undergraduate Student Program	アメリカ	8-12月 and/or 1-5月	授業料4,500ドル/course 宿泊費4,000ドル/semester	不明	高	4月（8月留学） 10月（1月留学）	
Columbia University Visiting Student Program	アメリカ	9-12月（秋） 1-6月（春）	授業料45,000ドル/year 宿泊費・食費11,000ドル/year	不明	高（TOEFL100）	3月（9月留学） 10月（1月留学）	
University California, Santa Barbara University Immersion Program（Extension）	アメリカ	冬:1-3月、春:3-6月、夏:6-9月、秋:9-12月	授業料等3,800-5,500ドル/quarter 宿泊費2,000ドル/quarter	不明	高（TOEFL80）	ウェブサイト参照	
University California, San Diego University & Professional Studies（Extension）	アメリカ	冬:1-3月、春:3-6月、夏:6-9月、秋:9-12月	授業料等7,800ドル/quarter 宿泊費2,000～2,500ドル/quarter	不明	高（TOEFL90）	8月（冬分）、11月（春分）、3月（夏分）、3月（秋分）	
Oxford University Visiting Student programme at St Peter's College	英国	10月-6月	25,000～33,000ポンド	不明	高	3月	
Oxford University Semester Abroad Scheme（Pembroke College）	英国	1月-6月	18,000ポンド	約30名	高	8月	
London School of Economics and Political Science The General Course	英国	10-6月	16,000ポンド+宿泊費	不明	高（TOEFL107）	9月	
University College London Affiliate Programme	英国	9-12月 and/or 1-6月	14,750 or 19,500ポンド+宿泊費	不明	高	4月（9月留学） 10月（1月留学）	

3ヶ月未満のプログラム

プログラム名	開催地	時期	費用（授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	応募締切	備考
世界各国の有力大学 Summer Session, Summer School	世界各国	5～8月	数十万円	多数	高（プログラムにより異なる）	3～5月	世界の有力大学の夏季集中講義に個人応募で参加可能 例:ハーバード、スタンフォード等
King's College London Summer School	英国	7～8月	2,300ポンド/Session	多数	高（TOEFL93）	5～6月	本学学生は受講料の10%割引が可能
国立交通大学 2013 NCTU Taiwan Elite Internship Program	台湾	5～10月の間で2ヶ月以上	往復航空賃支給	東大から3名以上	高	2月	理工系の分野の研究室で研究を行う
カリフォルニア大学各校 Extension（附属語学学校）	アメリカ	随時	数十万円	プログラムによる	中～低	随時	カリフォルニア大学各校には附属の語学学校があり、海外学生を受け入れている
VIA Stanford Programs	アメリカ	春・夏の数週間	$3,300～ $6,500	プログラムによる			VIA（米国NPO）によるスタンフォード大学等でのプログラム。医療、社会変革、社会起業家、語学等のプログラム

※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。
※費用については、原則として航空賃・生活費等を除いた、授業料と宿泊費の目安を掲載しています。

その他の留学体験談

氏名: 菅谷 麻那さん
所属（渡航時）: 経済学部 経営学科 3年
渡航先大学名: カリフォルニア大学バークレー校
留学プログラム名: Institute of International Studies International Study Program
留学期間: 2012年8月～2013年5月

私は、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校（UCB）に10ヶ月間留学しました。UCBが実施する私費留学プログラムを利用したのですが、手続きとしてはまず東大の学内募集に申請し、審査を経て東大からUCBへ派遣という形式で留学しました。

キャンパス横のInternational Houseという寮に住んでいました。緒方貞子氏をはじめ、数々の著名人を輩出してきた伝統ある寮で、世界60カ国600人の学生たちと生活を共にしました。その名の通り異文化交流が非常に盛んで、同じ寮に住む日本人留学生と協力して日本文化を知ってもらうイベントを開催した時は、和菓子をふるまい、書道コーナーを設置するなどをして好評を博しました。

大量の宿題やリーディング課題が課されるため、平日は勉強に追われていますが、その分休日はリラックスして過ごします。友人とサンフランシスコ（地下鉄で20分）へショッピングに出かけたり、大学のジム施設で運動したりして気分転換をはかりました。バークレーは学園都市なので治安もよく、気候も温暖なので住みやすい土地でした。

授業は経済学を主に受講しました。基本的に教授による講義と補助教員による少人数ディスカッションクラスがセットになっていて、1科目につき週4時間授業があります。またUCBは自由な校風ゆえ学生の活動が非常に活発で、通常授業の他に学生によって運営されるゼミがあり、これらも正式に単位として認められます。地域紛争研究からフラダンス入門まで幅広く、200以上のゼミがあります。私は台湾語と、イスラエル文化のゼミを受講しました。

私はこれまで留学経験は一切なく、慣れない環境に苦労も多々ありましたが、家族・留学生仲間・ルームメイトなど周囲の人に支えられて乗り越えることができ、今ではいい思い出となっています。そして留学して何より良かったことは、世界中から集まった優秀な同年代の学生たちと知り合えたことです。時には政治経済の話題を議論することもあり非常に刺激を受けました。この留学中は思う存分勉強し、辛いことも楽しいことも全て含め生涯忘れることのできない貴重な10カ月間になりました。留学を検討している方は是非、その一歩を踏み出してみることを強くお勧めします。日本では想像もできないような世界が目の前に広がっていることと思います。

その他の留学体験談

氏名: 井上 みのりさん
所属（渡航時）: 工学部 化学生命工学科 3年
渡航先大学名: コロンビア大学
留学プログラム名: Visiting Student Program
留学期間: 2012年9月～ 2013年5月

Columbia Universityが公募しているプログラムであり、東大を通してではなくこちらの大学に直接応募します。世界中から毎年20名くらいの学生が選ばれるようです。「プログラム」と言っても、一般の学生と同じ権限が全てもらえ、彼らと同じ授業、テストを受け成績が付き、寮、24時間の図書館、1週間100枚までできるコピー、充実したジム、大学公式のイベント、就職活動サポートなど全てフル活用することができます。ただし、授業料も同じだけ払わなければならなく、Columbiaの奨学金はもらえないので、日本の奨学金の早期準備をお勧めします。

授業は何個でも取って構わないのですが、私は秋学期、春学期共に4つ（一般の学生の平均だそうです）授業を取っていました。授業によりますが1週間あたり100ページ以上のリーディングの課題が出ます。私は東大では工学を専攻しているのですが、前々から興味のあったジェンダー、政治などの授業を取っていました。クラスによってレベルは違いますが、共通して言えるのは予習ベースであること、ディスカッションが多いこと、教授やTeaching Assistant（TA）と話すことができるOffice Hourがあることなどが挙げられます。

クラスによるのかもしれませんが、IntroductionのクラスではFoucaultやMarxなどの抽象度の高い課題が出され、セミナーなどの上級生向けのクラスでは具体的なケースの課題が出されることが多い気がします。語彙が弱い人は渡航前から少しずつ準備して行くとかなり違うのかなと思います。

「自分で頑張るんだよ」と渡航前知り合いの方に応援の言葉を頂きました。なんだかんだ大丈夫という自信が日本ではあったのだと思いますが、海外に初めて住み、挑戦的な環境に身を置くことでその言葉の意味を体感しています。よく「留学に行く意味を良く考えて行かないといけない、でないと行くだけになる」と聞きます。もちろん目標を持つことも大切ですが、留学は何かの万能薬ということでもないと思います。ただ、日々当たり前だと思っていたことが当たり前でない環境や異なるネットワークに飛び込むことで、考えることもあるのではないでしょうか。もし何か相談などありましたら国際交流課の方を通してお気軽に声を掛けて下さい。

5. 留学の計画と準備

留学を成功させるポイント

① 留学の目的を明確にする
自分の専攻分野に関する知識を深めたい、専攻以外の分野を学びたい、語学力を向上させたい、国際的な広い視野を身につけたいなど、留学の目的を明確にしてください。

② 自分に合った留学方法を検討する
留学期間（数週間、1学期、1年、1年以上）、留学方法（3ヶ月未満のプログラム、交換留学、個人留学、卒業後の大学院留学など）を検討してください。

③ 留学のための情報を集める
留学プログラム、留学先の大学、留学資格、留学に要する費用、奨学金、語学試験、必要書類等の情報を集めてください。

④ 語学を勉強し、語学試験を受ける
留学先が定める語学試験を受け、求める基準に達する必要があります。

⑤ 東京大学での学業に励む
留学や奨学金の選考等においては、学業成績も考慮される場合がほとんどです。ただし、語学力・志望理由画・学習（研究）計画・面接等も含め、総合的に選考されますので、積極的にチャレンジしてみてください。

Q —なぜあなたは留学しましたか？—

「東アジアにおける経済連携に関心があり、問題を考える上で土台となる経済学を英語でインテンシヴに学ぶことのできる環境が魅力的だった。また移民の多いバンクーバーは文化的に多様な人びとが住んでおり、この都市で多文化共生に触れながら生活することは、日本がこれから異文化をどう受け入れるかを考える上でも意義があると思った。」
ブリティッシュ・コロンビア大学留学（全学交換留学）・教養学部4年

「IARU GSPに参加する大学はどれも名門で、それらの学生らと意見を交換しあえる貴重な機会は滅多にないことが直接の動機にも繋がった。ここ10年間の日本の世界における停滞ぶりを見ていると、果たして日本という国が世界の人からどのように捉えられているのか自分の目で確かめ、帰国後日本のために生かしたいと願っていたことも動機の一つ。」
北京大学留学（IARU GSP）・法学部3年

「世界有数の大学から選抜されたメンバーとケンブリッジという最高の環境で切磋琢磨してみたかったら。」
ケンブリッジ大学留学（IARU GSP）・法学部3年

「これまでの大学生活の中で旅行など海外に行く機会が何度かあり、その中で自分の英語の未熟さを痛感しており、卒業するまでに一度留学をして英語を思いっきり勉強してみたいと考えていた。そのなかで、Yaleは世界でも有名な優秀な大学であり、そんな環境で勉強をしてみたいと思い、参加する事に決めた。」
イェール大学留学（English Language Institute） 農学部4年

—留学を終えて、どう感じていますか？—

「参加前は、法学部での学習がきわめて面白く、正直なところ留学についてしばしば耳にするほどの重要性を見出していなかった。日本でも十分勉強できるではないか、わざわざ外国に行って英語を使って勉強することにどれほどの意味があるのか、と疑問に思っていた。しかし、今回留学を経験し、短期ながらも外国で暮らし、外国の大学に通い、世界中の仲間と英語を用いて勉強したところ、外国に目を向けることによって、出会う学び・仲間の幅が広がるのだということにあらためて気づかされた。」
シンガポール国立大学留学（IARU GSP）・法学部3年

「勉強するのが当たり前という環境を作っていかない限り、今後さらに競争が増す世界において日本はより後れを取っていきかねないと危惧しました。英語が世界で最も使われている言葉であるにもかかわらず、自分のまわりを見ていてもアカデミック、そしてビジネスレベルで英語を使いこなせることを目標とし、さらには実現できているケースは非常に稀です。さらには日本語ですら自分の意見を主張する、考えをまとめて発表するという訓練を積んでいる学生は少ないため、そのような点も強化していかなければいけないと切実に感じました。」
イェール大学留学（IARU GSP） 農学部4年

「今までは自分の価値観が変わることを恐れていたが、今回の留学で世界は広く、自分の環境は世界の本当に一部でしかない事、自分の視点が変わる事、自分の世界が広がる事の楽しさを知り、価値観が変わることへの恐れがなくなった。そして何より、そのようなワクワク感がより高いモチベーションにつながっていくことを実感した。」
カリフォルニア大学バークレー校留学（IARU GSP）・法学部3年

学部での全学交換留学　留学時期のパターン（実例）

［注意事項］
※ここでは、参考例としてこれまで全学交換留学で留学した学生の留学時期のパターン（実例）を数例示しています。ここで示したパターンが全てではありません。
※実際の留学の際は、所属学部の教務スケジュールや各個人の本学での単位取得状況などにより変わります。下記パターンを学生が自由に選択できる訳ではないのでご注意ください。交換留学計画段階で所属学部の担当部署で相談・確認するなど情報収集を綿密に行ってください。
※留学先で取得した単位の本学での取扱いや、外国大学との学期のずれにより東京大学の授業に一定期間出席できない場合の取扱い（留学前に何学期まで東京大学で授業を履修し、留学後に何学期から授業の履修を開始できるか）は、所属学部によって異なります。詳細は所属学部の担当部署で確認してください。
※実際の留学期間は各協定校の学年暦により異なります。協定校のウェブサイト等で確認してください。

Aさんの場合　留学期間: 約1年　4年で卒業　3年・秋から留学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年生						応募期間	応募期間	学内選考	学内選考			協定校への申請
3年生		協定校受入許可				留学開始						
4年生	留学終了											卒業

Bさんの場合　留学期間: 1学期　4年で卒業　4年・秋から留学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生						応募期間	応募期間	学内選考	学内選考		協定校への申請	
4年生	協定校受入許可					留学開始						卒業

Cさんの場合　留学期間: 約1年　4.5年で卒業　4年・秋から留学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生						応募期間	応募期間	学内選考	学内選考			協定校への申請
4年生		協定校受入許可				留学開始						
4年生		留学終了				卒業						

Dさんの場合　留学期間: 約1年　5年で卒業　3年・秋から留学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年生						応募期間	応募期間	学内選考	学内選考		協定校への申請	
3年生	協定校受入許可					留学開始						
4年生		留学終了										
4年生												卒業

Eさんの場合　留学期間: 約1年　5年で卒業　4年・秋から留学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生						応募期間	応募期間	学内選考	学内選考			
4年生	協定校への申請		協定校受入許可			留学開始						
4年生		留学終了										卒業

留学等における学籍・単位認定など

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属する部局の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届など）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

●「留学」: 留学の手続きをとる
●「休学」: 休学の手続きをとる
　上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届などの手続きを行ってください。（例:夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合など）

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

「留学」の手続きによる場合と、「休学」の手続きによる場合の違いについて、右に大まかなチャートを示しますので、参考にしてください。

※留学先大学で取得した単位の本学における認定については、事前に留学時の所属部局の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科等により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合（交換留学）	「留学」の手続きによる場合（交換留学以外）	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない（ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要）
修業年限	算入される	算入される	算入されない
本学での単位認定	可（ただし、所属学部・研究科が承認した場合）	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生）

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学
第14条の2
　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学[注釈1]することなく外国の大学において専攻分野に関する授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。
2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定
第14条の3
　学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、専門教育科目30単位[注釈2]をこえない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続
第14条の4
　留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書[注釈3]を学部長に提出しなければならない。
2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い
第14条の5
　第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において専攻分野に関する授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位をこえないものとする。
3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈
1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当窓口で確認すること。
2 単位認定の上限は専門教育科目（後期課程科目）として30単位をこえない範囲で各学部が定めることになっている。単位認定については各学部の規則や、教務担当窓口で確認すること。
3 「留学許可願」を担当窓口に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当口に事前に相談し確認すること。

※大学院学生については以下を参照のこと。
●東京大学大学院学則　第28条（留学）
●東京大学大学院専門職学位課程規則　第23条（他の大学院における授業科目の履修等）

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

（2013.04.01現在）

※詳細については、各学部・研究科等の規則や、教務担当窓口で確認すること

学部

法学部

法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合において相当と認めるときは、随意科目として認定する。なお、対象とする大学は別に定めがある。

工学部

当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。

文学部

原則として、交流協定のある大学に限る。学生は専修課程に単位の認定希望を伝え、専修課程が認定してよいと判断すれば、認定する科目・単位数を明記して、専修課程から教務委員会に単位認定のための申請がなされ、適切と認められる場合は認定される。ただし、必修科目以外の「その他の文学部の単位」として認定される。

理学部

シラバス、成績等により審査をおこない、東京大学理学部規則別表に定める授業科目及び単位数に振り替えることができる。また、選択科目として、卒業に必要な単位数に含めることができる。

農学部

留学先大学の成績証明書、時間割およびシラバスを指導教員又は学部委員に提出し単位認定を申請した場合、認めることがある。

経済学部

単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。学部教務委員会・学部教授会で適切と判断された場合、単位の振替・認定が認められる。対象となる科目は、派遣先大学で正規課程の学生を対象に開講されている授業科目（サマープログラム等で取得した単位は対象外）に限るが、英語・フランス語などの語学の科目は対象外である。振替とは本学部専門科目への振替、認定は本学部選択科目への認定で、どちらも卒業単位に含めることができる。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームに事前に相談に来ること。

教養学部（後期課程）

協定締結校に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請した場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。

教育学部

原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、本学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。

大学院

法学政治学研究科

〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。

医学系研究科

外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士課程を通じて10単位を越えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、医学部大学院係へ相談すること。

工学系研究科

外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位として、修士及び博士後期課程を通じて10単位まで認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする（そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない）。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科修了単位には認定されない。

人文社会系研究科

外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。※休学して外国の大学の大学院に「修学」し、当該大学院で修得した単位については、本研究科修了単位には認定しない。

理学系研究科

外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程及び博士後期課程を通じて、10単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続に関する指示を受けること。

農学生命科学研究科

留学先大学の成績証明証、時間割およびシラバス等を指導教員に提出し単位認定を申請した場合、認めることができる。

経済学研究科

単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。対象となる科目は、派遣先大学で正規課程の学生を対象に開講されている授業科目（サマープログラム等で取得した単位は対象外）に限る。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームに事前に相談に来ること。

総合文化研究科

留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位は、10単位を超えない範囲で本研究科の授業科目及び単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、留学又は休学期間終了後に総合文化大学院係で必要な手続きをとること。授業科目及び単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目及び単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。

教育学研究科

教育上有益と認めるときは、研究科教育会議の議を経て、学生が休学することなく外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。外国の大学の大学院において修得した授業科目・単位の換算及び評点等は当該コースで認定し、研究科教育会議の議を経て、承認を得るものとする。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて10単位を超えないものとする。

新領域創成科学研究科

外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を越えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務係へ相談すること。

情報理工学系研究科

当該専攻の審査により、10単位を限度として修了単位に認定することができる。

学際情報学府

留学により外国の大学の大学院において修得した科目は、本学府の承認を得ることにより、他研究科科目として、本学府の修了必要な単位として認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務係に相談すること。

公共政策学教育部

公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。

留学にかかる費用

留学一般について

留学には、国・地域によりますが、一般的に学費・生活費等でおよそ年間200〜300万円以上の費用がかかります。高額に思えるかもしれませんが、留学しなくても学費・生活費はかかります。留学しなかった場合の学費・生活費と比較して検討してください。

留学のための奨学金が各種ありますので、情報を集めて利用しましょう。奨学金については26ページをご覧ください。奨学金の選考では成績が考慮される場合が多いため、奨学金の利用を考えている学生は、当然のことながら東京大学での学業にも真剣に取り組むことが大切です。

多くの国で、アルバイトはビザの制限により原則として禁止されています。現地でアルバイトに頼る生活にならないよう、早めに資金の計画を立てることが必要です。

東京大学を通じて申し込むことによるメリット

交換留学の場合は、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学の授業料を東京大学に納めることになります。

交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引や免除、参加費補助が受けられるケースがあります。適切に情報を集めれば、経済的負担を減らして留学することが可能です。

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。

実際の留学費用

実際の留学費用は、プログラムや学生の奨学金受給状況により異なります。ウェブサイトに記載されている詳細な留学体験記（31ページ参照）では、各学生の実際に留学に要した費用が報告されていますので参考にしてください。中には奨学金等を利用し、ほぼ自己負担額なしで留学を実現した学生もいます。

英語能力試験

留学する場合、留学先大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、状況により、申し込みからスコア到着までかなり時間がかかる場合があります。また、新規の留学プログラムの募集の場合、募集開始から締切までの期間が非常に短い場合もあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、留学を考えている場合は早めに受験し、常に有効期限を満たすスコアを所持しておくようにしましょう。

英語圏の大学の留学にはTOEFL iBTやIELTS（Academic Module）のスコアの提出が一般的です。東京大学本部が担当する留学プログラムでも、TOEFL iBTまたはIELTS（Academic Module）の提出しか認めないプログラムが多くなってきています。
※TOEICや英検は日本の就職活動等では広く用いられますが、大学への留学の際の語学能力試験として認められていないケースも多いため、注意してください。

	TOEFL iBT	IELTS（Academic Module）
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、130 を超える国々の 8,500 以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。Academic Module（大学や他の高等教育機関への出願のためのテスト）とGeneral Training Module（一般的な生活、仕事や、移住関係に関わる英語のテスト）の2種類がある。
スコア	0〜120（1ポイント刻み）	1.0〜9.0（0.5ポイント刻み）
試験日	年間30〜40回実施	東京は毎月3回程度実施
受験料	US $225（締切日によって受験料が異なる。）	24,675円

留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いかと思います。
留学経験があるということのみをもって就職活動で高く評価される時代ではありませんが、
留学・就職活動をした学生からは、「留学は就職活動にプラスになることはあってもマイナスになることはなかった」
「就職について考えるいいきっかけになった」という声も聞かれます。
以下に留学と就職に関するいくつかのデータをご紹介しますので、参考にしてみてください。

日本学生支援機構
「海外留学経験者の追跡調査」（2011年）
http://www.jasso.go.jp/study_a/enquete2012.html

○海外留学経験（3ヶ月未満〜4年以上）がある20〜40代の一般個人を対象にした同調査では、現在の職業に関して、留学が現在の職業に業務面で役立っているかについて、54.3%が「非常に役立っている」、「役立っている」と回答。留学に対する総合的な満足度については、「非常に満足」が49.4%で最も多く、「やや満足」の38.4%と合計すると87.9%が「満足」と回答した。また、93.1%が留学経験は今後も役立つと回答している。

日本経済団体連合会
「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果」（2011年）
http://www.keidanren.or.jp/policy/2011/005.html

○各社に今後5年程度の海外戦略について聞いたところ、「現在、海外展開を行なっており、今後も拡充する」との回答が半数を占め（50.3%）「海外展開を行なっており、今後は現状維持」「海外展開を行なっていないが、今後は展開する予定、または検討中」を合わせると70.3%に達した。
○今後の事業活動のグローバル化に対応するための人事戦略の方向性としては、「海外赴任を前提とした日本人の採用・育成を拡充」するとの回答が最も多く（584社中233社）、「国籍を問わず、有能な人材を幹部に登用する」を挙げる回答も多かった（584社中172社）。
○グローバルに活躍する日本人人材に求められる素質、知識・能力として最も多く指摘されたのは、「既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持ち続ける」ことであり（419社）、次いで「外国語によるコミュニケーション能力（語学力に加え、相手の意見を聴いた上で、自分の意見を論理的にわかり易く説明する能力）」（368社）、「海外との文化、価値観の差に興味・関心を持ち、柔軟に対応する」（312社）が上位となった。

「グローバル人材の育成に向けた提言」（2011年）
http://www.keidanren.or.jp/policy/2011/062.html

○外国語によるコミュニケーション能力の向上に加え、異文化への適応力、海外へのチャレンジ精神など、グローバル人材に求められる素質・能力を育成する上で、海外留学は特に有効な手段である。産業界と大学が連携して、奨学金の拡充等を通じて、日本人大学生の海外留学を奨励することが求められる。その際、3年次から始まる就職活動が、学生が交換留学等に応募しない一つの要因と指摘されていることから、企業側は、通年採用の拡大などによる採用スケジュールの複線化や、海外留学の帰国生を対象とした合同就職説明会の開催などを通じて、海外留学した学生を不利に扱わないというメッセージを発信し、大学側と連携してこの問題の解決に取り組むことが求められる。

「新卒採用（2012年4月入社対象）に関するアンケート調査結果」（2012年）
http://www.keidanren.or.jp/policy/2012/058.html

○国内大学在学の海外留学経験者への対応について、海外留学経験者の採用を実施（予定含む）している企業（回答企業の30.9%）のうち、「春季一括に加えて、夏季・秋季採用を追加して対応」と回答した企業が45.3%、「特別な採用選考機会を設けている」と回答した企業が23.5%、「通年的に採用機会を設けることにより対応」と回答した企業が13.4%であり、「複数の対応策を行っている」との回答が8.9%あった。留学経験者の採用を行う企業のうち、9割を超える企業が、留学経験者に配慮した採用を行っていることになる。

留学を経験した東大生の声

■多くの人は11月のボストンキャリアフォーラムに参加します。日米バイリンガルの人のための就職活動の場です。あなたが優秀ならば外資系企業はその日のうちに採用の判断を下します。
■ボストンキャリアフォーラムへの参加と、現地の日本企業の方への訪問を行った。結果的に、ボストンキャリアフォーラムでは夏の長期インターン（外資系投資銀行）を獲得することができた。
■2012年9月に卒業し、民間企業へ就職しますが、ロースクールでの交換留学を経て、就職後の大学院留学を強く意識するようになりました。
■大学院を卒業したら、外資系の会社でコンサルタントとして働く予定である。留学中にUC Berkeleyのビジネススクールに留学されている方と交流したり、説明会に参加したりしたことから、MBAへの関心が高まり、いつか留学したいと思った。
■来年度の勤務先では日常的に英語が必要であり、学生時代に留学をすることは大学入学時からの目標であったため留学しました。

6-1. 海外インターンシップ

企業・団体等での体験・研修

●特徴は?

海外の企業や団体で実務を通して専門知識やビジネススキルを身につけることができる研修です。実用的な英語力や国際感覚を養うことが期待されます。有給と無給のタイプがあります。

●どんなインターンシップがあるの?

1. ビジネスの現場での研修

海外の企業でのマーケティングや事務作業、プロジェクトの運営などの実践活動に携わります。その他、先進的なIT企業でプログラミングや情報処理、システム開発の実践に携わるなどの研修もあります。

2.途上国開発の現場や国際機関、教育機関での研修

発展途上国の国や地域で活動するNGO・国際機関、その他教育機関等で働きます。

大学・研究機関等での体験・研修

●特徴は?

主に理系の学生を対象にした、自身の専門分野の知識やスキルを活かすことのできる科学技術に関係する研修です。一定の期間、海外の機関(大学・研究所・企業の研究機関等)で働きます。自身の専門性を高めるとともに、国際社会への適応力を養います。有給(滞在費支給)の場合が多いです。

●専門をはじめたばかり、あるいはこれから専門に進む状況でも大丈夫?

科学技術型インターンシップの場合には、派遣を希望してから実際に研修を行うまで、半年以上かかることが多いです。先方の希望する分野との整合性を確認しながら派遣先を決めるためです。実際の研修の時には専門がある程度身についていることが望ましいです。

●どんなインターンシップがあるの?

電気電子、情報、機械、航空、土木、環境、物理、化学、生物、農学、薬学、経営工学など、さまざまな理系分野から大まかに方向を選びます。また海外の受け入れ機関や部署に応じて、研究、開発、技術習得などの研修形態があります。

〈海外インターンシップの例〉

プログラム名	実施国	実施時期	募集締切	備考
IARU Global Internship Program	アメリカ・スイス・シンガポール	5月〜8月	3月上旬	本学が加盟する国際大学連合IARUの優秀な学生向けに提供される。
ADB(アジア開発銀行)Internship Program	フィリピン	4月〜3ヶ月程度	2月中旬	大学院生対象。複数の分野向けに実施される。
香港大学 Learn, Live and Intern in China	中国	6月〜8月	1月下旬	香港大学での授業と香港または上海でのインターンシップを組み合わせた香港大学のサマープログラム。
世界銀行 The Bank Internship	アメリカ	6月〜9月 12月〜3月	1月 10月	大学院生対象。

注)各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。

イアエステ(IAESTE)

イアエステは、理系の国際インターンシップを実施する世界最大の国際プログラムであり、またそれを行う団体です。国連やユネスコなどと協調して事業を進めている非営利・非政治の組織で、世界100カ国に近い国々の多数の大学、政府組織、非政府組織、学生ボランティアグループがこの活動を支えています。1948年の設立以来、総計35万人以上の学生を送り出してきました。イアエステ・ジャパンはその日本国内組織で、1964年に東京大学で設立されました。イアエステでは、理系の幅広い分野において質の高いインターンシップ研修が体験できます。派遣学生は一定期間、海外の研究機関で働き、機関の一員として交流します。そして国際社会への適応能力を養い、自分の将来ビジョンを明確化します。受け入れ先からは滞在費相当の給与が支払われます。派遣先はヨーロッパの国々を中心に、アジア、アメリカなど世界各国です。また、研修期間も多様で8〜52週間の幅があり、夏季休暇を利用して休学することなく国際インターンシップに行くことが可能です。あなたも、いま学んでいる(これから学ぶ)専門の力を海外で展開して、世界の人々との交流に挑戦してみませんか。

URL: http://www.iaeste.t.u-tokyo.ac.jp/

Email: committee@iaeste.u-tokyo.ac.jp

国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部

国際教育交換協議会(CIEE)は、約40か国に駐在員を擁し、30か国50団体と提携し、派遣合わせて年間約4万5千人規模で事業を展開しています。主に、大学生を対象としたプログラムは、新しい時代のニーズに対応した海外でのボランティアやインターンシップの企画・運営をしております。その他、日本国政府より委託された派遣研修など、活動は多岐にわたります。また、TOEFL®テスト日本事務局として英語力向上の支援をするとともに、実践的な英語コミュニケーション能力を鍛え、異なる文化やことばをもつ世界の人々との理解を深め、人との出会いの大切さや感動を実感できる様々な国際交流プログラムを提供しています。CIEEが取り扱う海外ボランティアは「国際ボランティア・プロジェクト」(世界中から集まったボランティアと共に活動)を中心に、ホームステイをしながら地域密着型の活動や、教育体験、環境保護、社会福祉などインターンシップの要素も含まれるプログラムも実施しています。CIEE東京事務所(最寄駅:表参道又は渋谷)では、海外ボランティア説明会を、ほぼ通年で毎週実施しております。興味がある方は、是非、説明会にも足をお運びください。

URL: http://www.cieej.or.jp

Email: info@cieej.or.jp

6-2. 国際ボランティア

●国際ボランティアとは?

世界各国における経済・社会の発展、復興への寄与、友好親善・相互理解等を目的として現地で活動することです。

●国際ボランティアの魅力は?

留学をする場合にかかる費用や時間、インターンシップにおいて求められる語学力や経験と比べると国際ボランティアの場合は、より参加しやすくなっている場合もあります。自発的な意思により社会に貢献する活動を共に行い交流することで、参加者間で文化や言葉の壁を越えて交流を深めることができます。

●国際ボランティアによる渡航先は安全ですか?

各国際ボランティアの実施団体は、実施国の安全面に配慮していますが、渡航先には発展途上国が多いということから一概に安全とは言い切れません。東京大学の『海外渡航危機管理ガイドブック』などを参考にし、渡航先ではいつも以上に気を配り安全に過ごせるように気をつけましょう。外務省ホームページ"各国安全情報"や厚生労働省検疫所ホームページ"海外で健康に過ごすために"等の情報を得ることが必要です。

●どんなボランティア活動があるの?

ボランティアと一言で言ってもその活動内容は多種多様です。例えば、特定非営利活動法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)では、①人道支援、②地域開発、③環境保護、④文化遺産保護と幅広くボランティアを受け付けています。数あるボランティアプログラムの中から自分に合ったプログラムを見つけましょう。

〈国際ボランティアの例〉

プログラム名	実施国	実施時期	募集締切	備考
JICA×東京大学 短期ボランティア	ネパール・スリランカ・タンザニア	3月	11月	東京大学に在学中の学部学生対象(20歳以上)
JICA 青年海外協力隊	各国	実施国による	5月・12月	農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政の8部門 約120職種
JICA短期ボランティア (通常募集)	アメリカ	実施国による	年4回	農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政の8部門

注)各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。

国際協力機構(JICA)

国際協力機構(JICA)では、青年海外協力隊などのボランティア事業を実施しています。青年海外協力隊は、途上国の住民と直接交流しながら、その国が抱える課題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としています。募集は春と秋の年2回行われ、派遣国はアフリカ・アジア・中南米、中東地域の約80か国で、活動職種も120以上と多岐にわたります。応募対象者は20〜39歳の日本国籍を持つ方です。JICAでは、協力隊員が円滑に活動を行うために、現地事務所にサポートスタッフを配置しているほか、健康面・安全面での支援体制を整えています。また、派遣国との往復渡航費、現地生活費等の経費を負担しています。

開発途上国での活動のなかで度重なる困難や逆境を乗り越えた協力隊員は、その経験を通じて逞しい精神力・忍耐力、コミュニケーション能力を培い、グローバルな視野だけでなく、人間的にも大きく成長して帰国します。近年は、企業や自治体等が協力隊経験者をグローバル人材として高く評価し、積極的に採用する事例が増えています。

URL(JICA): http://www.jica.go.jp/

URL(青年海外協力隊): http://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/

日本国際ワークキャンプセンター(NICE)

NICEは、「カラフルでヘルシーな世の中」を目指して日本・世界約100ヶ国で各種ワークキャンプを主催・派遣する国際ボランティアNGOです。ワークキャンプとは、その地域の抱える固有の問題を解決するため、世界中から集まった仲間と1〜3週間寝食を共にしながら、メンバーや地域の人たちと共に行うボランティア活動です。2012年は1095人の日本人ボランティアが海外・日本各地で活躍しました。一例として、カンボジアの学校で子どもに英語教育、フィリピンでマングローブの植林、また国内では熊本でエコハウス竹ゲートの改修、竹炭作りプログラムなど、年間約100ヶ国3000プログラムの中から選べます。国籍の違う仲間とともに生活し、笑い、語り合うことだからこそ得られる成長が待っています。

「こんなにエキサイティングでドキドキわくわくな経験は初めてでした。この経験を終えてすごく自信がつきました。この先、なんでも、どこでもやっていけるんじゃないかと思ってしまうくらいです。」「現状を目の当たりにし今後自分ができること、しなければいけないことを考えていきたいです。」といった声が参加者から届いています。必要なのは、やる気と行動力、そしてカタコト以上の英語力のみです!

URL: http://www.nice1.gr.jp/

JICA×東京大学短期ボランティアプログラム

国際協力機構（JICA）は、東京大学の学部学生（20歳以上）を対象とした短期ボランティアプログラムを開始しました。このプログラムによる初めての東京大学からの派遣学生32名が、2013年3月、約1ヶ月間にわたってネパール、スリランカ、タンザニアの3カ国で幼児教育や青少年活動、理数科教育等のボランティア活動に従事しました。本プログラムでは、海外に長期派遣されている青年海外協力隊員と協働して短期間のボランティア活動を行います。平成25年度も実施する予定ですのでウェブサイト等で最新の情報を確認してください。

※平成25年度事業の派遣時期や派遣国等詳細は2013年4月現在で未定ですので必ずウェブサイト等で最新の情報を確認してください。

東京大学体験活動プログラム

平成24年度、東京大学では、「よりタフに、よりグローバルに」次世代を担っていく学生を育成するという教育目標を達成する方策の一つとして、国内外を問わず実社会での多様な体験（ボランティアなどの社会貢献活動、国際交流体験活動、インターンシップ活動など）を得るためのプログラムを提供していくこととしました。学部前期課程および後期課程の学生の皆さんが正課以外の場で、さまざまな活動を知って、見て、体験するためのサポートをします。

平成25年度も国内・海外を問わず実施予定ですのでウェブサイト等で最新情報を確認してください。
URL: http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html

インターンシップ体験談

IAESTEインターンシップ
氏名:岩田 史也さん
所属（渡航時）:工学系研究科 化学生命工学専攻 修士1年
渡航先国名:クロアチア共和国
研修先:ザグレブ大学理学研究科
研修期間:2012年10月8日～11月18日（6週間）

クロアチアのザグレブ大学でのインターンシップに参加しました。6週間のインターンシップ期間中、糖尿病に関する研究プロジェクトに参加し、ひたすら実験をしました。研究室内は皆英語が堪能であったのでコミュニケーションで困ることはありませんでしたが、研究スタイルや環境が非常に異なっていたため、最初は苦労しました。しかし同僚はみな人柄が良く手助けをしてくれたので、すぐに順応することができました。そんな中最も良く言われた言葉は、“Don't be shy.”でした。日本人の場合、言わずとも相手の意をくみ取りますが、向こうでは言わなければ伝わりませんでした。自分の考えや感想ははっきりと言葉にして伝えるという自己主張の強さが彼らの“社交性”や“積極性”に繋がってくるのだと思いました。

自分が研修を開始した際、ヨーロッパまたオーストラリアなど世界各国からIAESTE研修生約10名が参加していました。みな同じ学生寮に滞在していたため非常に仲良くなり、仕事を終えてから寝るまでの時間は一緒に過ごし、週末は一緒に国内および近隣国へ旅行しました。その中で一番印象に残った都市はサラエボです。サラエボでは1996年まで紛争が続き、セルビア軍からの攻撃で多くの一般市民が亡くなり、深刻な被害を受けました。現在、市は復興を遂げているものの、古い建造物には銃弾の跡が生々しく残っており、町中に戦争の傷跡が残っていました。一方で傷跡の残る建物に新しい現代的なビルが隣接しているという光景も多々ありました。この二つのコントラストには言葉では表しがたい印象を受けました。自分と同世代の若者が戦争そして自分の国について深い考えを持っていることに非常に感心しました。それと同時に、自分も含めた日本人の若者の自国への考えの浅さに恥ずかしさを感じました。

この6週間で実に多くのことを経験することができました。他の研修生や現地で出会った友人と多くを語り合い、様々な文化・価値観に触れ、また日本の文化について説明することで、自分自身の価値観および日本という国を見つめ直すことができました。この6週間は一生色褪せることのないかけがえのない時間であり、今後の自分に大きく影響すると確信しています。これから海外インターンシップ等を目指すみなさんには“積極性”ということを忘れずに何事にも貪欲に挑戦してほしいと思います。

ボランティア体験談

ワークキャンプ（NICE）
氏名:後屋敷舞さん
所属（渡航時）:教養学部 前期課程2年
渡航先国名:ロシア
滞在期間:2012年8月18日～8月28日（10日間）

私は大学2年生の夏休みに、ロシアで行われたワークキャンプに参加しました。せっかくの長い夏休みなのだから何か普段はできないことやってみたいと思いロシアでのワークキャンプへの参加を決めました。言語や治安など、海外渡航経験がないため不安なこともたくさんありましたが、NICEの職員の方に質問したり、ネットで情報を集めるなどしてきちんと不安を解消してから出発しました。

ワークキャンプ先では、地元スタッフのお家にホームステイさせていただきました。1人暮らしの社会人の方のお部屋だったので基本的には自炊していました。常備されたスパイスの袋がどんな料理に使うものなのか全く分からず、適当にふりかけてこの世のものとは思えない味わいの料理をつくってしまったことも今となっては良い思い出です。

ワークキャンプの主な活動内容は町の清掃と環境問題の住民への啓発でした。私が参加した時期は真夏でしたが、最高気温が10℃を下回る日もめずらしくなく野外での活動はとても寒かったです。活動中は、日本人としての意見を求められる場面も多々あり、特に福島の原発事故に関してはするどい質問に答えることができずもっと勉強して自分なりに原子力について、またこれからのエネルギー問題について考えをまとめておけば良かったと思いました。一緒に参加したメンバーは、私以外は皆職場から国際ボランティアに参加するために長期休暇を取っている社会人でした。普段の生活ではキャンパス内での学生同士の交流が主なので、社会人に交じって会話をしたり、プレゼンテーションをするという機会を得ることができたのはとても新鮮でした。

ワークキャンプを通して机に向かって勉強しているだけでは決してできないことを参加者同士で学べたことは一生の宝物です。海外に行くと価値観が変わる、日本をより客観的に見ることができるようになる、ということは聞いたことはありましたが、まさにその通りでした。百聞は一見に如かず。皆さんも是非、自分の足で海外に行き貴重な経験をしてみてください。きっと観光旅行では味わえない“何か”を味わえると思います。海外経験を通して、皆さんの大学生活がより実り多いものになることをお祈りしています。

ボランティア体験談

青年海外協力隊（JICA）
氏名:小澤 秀樹さん
所属:工学部 応用化学科 2007年卒業（卒業後に渡航）
渡航先国名:タンザニア連合共和国
ボランティア先:ルクレディ中等学校（タンザニア南東部 ムトワラ州マサシ県）
滞在期間:2008年3月～2010年3月（2年間）

私はJICA青年海外協力隊に参加し、タンザニアで理数科教師として中等学校で主に数学と化学の授業を行う活動をしました。タンザニアでは数学・理科の教育水準の低さ及び教師不足が大きな課題となっており、将来の国の自立的発展を担う人材育成のため、多くの隊員がこの分野で活動しています。生徒が敬遠しがちなこれらの科目に興味とやる気を持ってもらえるよう、生徒参加型の授業を心がけたり、生徒を教室内でたくさん褒めたりと自分なりの活動をしました。また、現地のタンザニア人教師と我々日本人教師のレベルアップを同時に図る目的で、共同の「研究授業&ワークショップ」を定期的に開催する活動にも携わりました。我々日本人教師はタンザニア流の授業テクニックを現地教師から学び日々の活動の質向上が図れ、逆に現地教師に対しては「Teaching Aids（補助教材）の作成法や有効な使用法」を紹介するなどお互いに深く学び合える貴重な機会でした。

言語も文化も常識も違う人々と日本以外の環境で一緒に働く経験は自分を大きく成長させてくれますし、益々グローバル化が進む社会や組織の中でより良く働くために必要な「相互理解・相互尊重」の基盤を形成することができると思います。国際ボランティア活動の基本は“現場を観察し自ら課題を発見し、自ら挑戦する主体性”と“現地の人と共に考え一緒に働く際の多様性”だと思います。生活面でも多くの事が学べます。私の住んでいた村は水道&電気は村の僅か一部にしかなく、首都まではバスで12時間という環境でしたので、日本の生活環境がいかに恵まれているかということへの自覚を体に刻むことができ、多くの村人の助けで支えられている部分が多いので、周囲の環境や人々に生かされているという畏敬&感謝を強く感じます。

私にとってはこれらの価値観や出会いはどんな時代が訪れようとも、また日本人同士で働く場合にも活かすことのできる一生の財産です。きっとどんな国・地域にも魅力的な人々が暮らし、素晴らしい特色があるのだと思います。そんな感覚を頭だけではなく実体験を通して感じる幸せを皆さんも是非味わってみて下さい。それは「将来、何の目的のために、どんな分野で働くのか」という問いに対し、あなたのためにあなたしか見つけることのできない答えを探す一つのヒントになるかもしれません。

7. 大学院留学

ここまで、交換留学、3ヶ月未満の留学、個人応募のプログラム、インターンシップ、ボランティアといった、東京大学在学中の留学・国際交流について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても様々な形で情報提供などを行っています。

海外の大学院の種類

海外の大学院には大きく分けてGraduate Schoolと、Professional Schoolの二つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Law SchoolやBusiness Schoolに代表されるProfessional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。

大学院のシステム

世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本とは異なることが多いので十分な情報収集が必要です。

大学院レベルで提供される学位は、修士号（Master's Degree）と博士号（Doctoral Degree or Ph.D.）があります。

修士課程は、通常1～2年間の課程です。大きく分けると「アメリカ型」と「イギリス型」に分けられ、その主な特徴は以下の通りです。

アメリカ型：入学時期は8月末～9月が一般的。修了までに基本的には2年を要す。ほとんどの大学が2学期制を採用。

イギリス型：入学時期は9月～10月が一般的。通常1年で修了することができる。ほとんどの大学が3学期制を採用。

博士課程は、通常3～8年間の課程です。プログラムによっては、大学の学部課程を修了後、修士課程を経ず、直接博士課程に出願することも可能です。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

●東京大学Go Globalウェブサイト

「留学プログラム」のページの一覧表で、東京大学宛に案内のあった大学院留学プログラムを随時紹介しています。（以下の表参照）また、「奨学金・海外活動奨励費」のページで奨学金に関する情報も提供しています。（29ページ参照）

●説明会等の大学院留学関係イベント

東京大学Go GlobalウェブサイトやSNS（32ページ参照）で、海外大学や各国大使館などが主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

●UT-OSAC

東京大学の卒業生を中心とした団体である、UT-OSAC（Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo）では、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。

UT-OSACウェブサイト：http://www.ut-osac.org/index.html

〈大学院留学　東京大学GO Globalウェブサイト掲載例〉

※東京大学本部に案内のあったプログラムの一例を紹介しています。他にも様々なプログラムがあります。

※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。

※奨学金については、29ページの「奨学金・海外活動奨励費」も参照してください。

大学/プログラム名	費用	備考
ワシントン大学（セントルイス） McDonnell International Scholars Academy	授業料、生活費、旅費等を支給	本学卒業生のための奨学金プログラム。
ハーバード大学 Harvard-Yenching Institute's RSEA Fellowship	授業料、宿泊費、往復航空賃等を支給	ハーバード大の修士課程Regional Studies-East Asiaの出願者の中から選ばれるアジア人向けのFellowship
マサチューセッツ工科大学 Legatum Fellowship	経済支援あり	低所得国での起業を目指す、MITに入学を希望する大学院生向けのFellowship
スタンフォード大学ビジネススクール TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ	授業料、宿泊費、往復航空賃等を支給	
ハワイ大学皇太子明仁親王奨学金	学費免除、生活費等として年間 25,000ドル、渡航旅費	
オックスフォード大学 Ertegun Graduate Scholarship Programme in the Humanities	授業料、生活費を支給、専用の寮を提供	人文科学を対象

8. 安全と危機管理

海外では、不慣れな場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺など、様々な被害に遭う可能性が高くなります。危険を感じる状況等をできるだけ避け、常に危険等を予測してから行動するよう心がけてください。

学生が海外渡航する機会が増えている現状、また、今後も増えることが予想されることを受け、東京大学の学生及び教職員のための『海外渡航危機管理ガイドブック』を作成しています。海外に渡航する学生は必ず本ガイドブックを熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。

『海外渡航危機管理ガイドブック』
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/voyage/index.html

保険への加入

海外渡航中の保険については、出発前に各自で責任をもって出発から帰国まで期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。留学先大学等に指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて保険に加入してください。

※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意すること。

所属部局での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科等の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

日本大使館・領事館への「在留届」の提出

海外に3ヶ月以上滞在する場合は、必ず、最寄りの日本大使館・領事館に「在留届」を提出してください。（旅券法16条により義務付けられています。インターネットによる提出も可能です。）万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館はこの「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。※転居・帰国の際にも必ず届け出ること。

外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。

また、現地で天災、新型インフルエンザ等の感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。

その他、プログラムの担当者、本学所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。

9. 奨学金・海外活動奨励費

留学や海外活動、特に欧米や長期での海外滞在には高額な費用がかかります。留学・海外活動の期間や目的などによって対象が異なる様々な奨学金・海外活動奨励費があります。各自の留学・海外活動の内容に沿った奨学金・海外活動奨励費に応募し支援を受けることが可能です。

奨学金・海外活動奨励費の種類

まず留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満と奨学金支給の対象が分かれています。さらに奨学金によっては交換留学、学位取得、その他（インターンシップ、ボランティア等）などその種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。

また東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するものと、個人で直接応募するものとがあります。

期間	種類・目的	応募方法
✓3ヶ月以上	✓学位取得を目的としない留学（交換留学、Visiting student programなど）	✓東京大学への応募（東京大学独自の奨学金）
✓3ヶ月未満	✓3ヶ月未満の留学（サマープログラムなど）	✓東京大学を通じた外部団体への応募
	✓学位取得を目的とした大学院留学	✓外部団体への直接応募
	✓その他の海外体験（インターンシップ・ボランティアなど）	

奨学金・海外活動奨励費の例

留学一般について

留学する場合は、東京大学独自の奨学金および外部団体の奨学金へ応募することができます。東京大学は「東京大学海外派遣奨学事業　海外留学等奨学金」（予定）を設け、学生の留学・海外活動を支援します。留学の期間により、短期（3ヶ月以上1年以内）または超短期（3ヶ月未満）の留学を対象とした奨学金に応募が可能です。

東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。

学位取得のため留学する場合

例えば2年間にわたり修士学位を取得するために留学する場合などは、日本学生支援機構（JASSO）留学生交流支援制度（長期派遣）ほか様々な外部団体が公募している奨学金に応募できます。

奨学金・海外活動奨励費の探し方

東京大学および外部団体からの主な奨学金・海外活動奨励費の公募情報は、東京大学Go Globalウェブサイトにて随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。

奨学金・海外活動奨励費の締切は留学開始の半年ほど前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金・海外活動奨励費についても情報収集すると良いでしょう。

また、「他奨学金の併給を認めない」とする奨学金・海外活動奨励費もあるので、併願する際は十分注意してください。

主な奨学金・海外活動奨励費　一覧

注）・支援内容は変更することもあるので、最新情報は東京大学Go Globalウェブサイトを確認すること。
・※印は東京大学独自の奨学金。
・申請先欄が所属部局となっている奨学金は、東京大学による推薦や取りまとめが必要とされるもの。申請方法や締切については各自所属部局窓口へ問い合わせること。
・下記の他、特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、東京大学Go Globalウェブサイトを確認すること。

3ヶ月～1年以上・学位取得を目的としない留学が対象の奨学金（交換留学・Visiting student programなど）

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
※東京大学海外派遣奨学事業　短期（3ヶ月以上1年以内）海外留学等奨学金	3ヶ月～1年	月額6万円～10万円（予定）	所属部局
（公財）KDDI財団　日本人海外留学生　助成プログラム	1年	年額200万円	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団　産業リーダー人材育成奨学金奨学生	1年または2年	授業料、生活費、教材費、渡航費等として年間450万円を一律支給	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団　日本人大学院生奨学生	1年または2年	授業料、生活費、教材費、渡航費等として年間350万円を一律支給	所属部局
ヤマハ発動機国際友好基金 海外派遣日本人留学生	1年以内	月額10万円	所属部局
（公財）佐藤陽国際奨学財団　派遣留学奨学生	6ヶ月～1年	月額8万円、往復渡航費25万円、交換留学一時金10万円	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団　経団連グローバル人材育成スカラーシップ奨学生	8ヶ月以上1年未満 理工系は6ヵ月～	100万円	直接応募
（独）日本学生支援機構第二種奨学金（短期留学）（有利子貸与）	3ヶ月～1年	月額3万円～15万円	本部奨学厚生課

3ヶ月未満の留学への奨学金

奨学金・プログラム名	期間	金額・対象	申請先
※東京大学海外派遣奨学事業　超短期（3ヶ月未満）海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額6万円～10万円（予定）	所属部局
日加リーダーシップ基金　語学留学奨励金	指定なし	10万円　カナダ語学留学	直接応募
Friends of Todai奨学金	夏季の数週間	3000ドル～4000ドル　アメリカの大学での夏季プログラム	直接応募

留学以外の海外活動への奨学金

奨学金・プログラム名	期間	金額・対象	申請先
（公財）交流協会　日台若手研究者交流事業（科学技術） （A）個人派遣（長期）（B）グループ派遣（短期）	（A）2ヶ月間 （B）1週間	往復航空券、交通費、滞在費、海外旅行保険 科学技術分野での台湾派遣、大学院生対象	直接応募
（公財）NEC C&C財団　国際会議論文発表者助成事業	国際会議期間中	12～25万円（開催地により異なる） 情報処理技術分野での国際会議論文発表、大学院生対象	直接応募
（社）日米協会　米国研究助成プログラム	短期（ただし1週間以上滞在）	航空費、滞在費、研究費の一部として3,000米ドル以内 米国研究活動、大学院生対象	直接応募
富士ゼロックス株式会社　小林節太郎記念基金　小林フェローシップ	1年間	最高120万円/1件・1年 アジア・大洋州諸国・地域研究活動、博士課程学生対象	直接応募

学位取得を目的とした大学院留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	期間	金額・対象	申請先
（公財）吉田育英会　日本人派遣留学プログラム	2年または3年	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額15万円、住宅費補助、扶養補助（該当者のみ）、往復渡航費	所属部局
（公財）竹中育英会　海外留学奨学生	修士2年以内 博士5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費200万円以内	所属部局
（公財）アジア国際交流奨学財団　川口静記念奨学生	1年以内	月額4万円　アジア留学	所属部局
（独）日本学生支援機構　留学生交流支援制度（長期派遣）	修士2年以内 博士3年以内	月額8.9万円～14.8万円、授業料	所属部局
（公財）平和中島財団　日本人留学生奨学生	2年以内	月額15万円～20万円、往復渡航費	所属部局
（公財）中島記念国際交流財団　日本人海外留学奨学生	修士課程：最長2年 博士課程：最長5年	奨学金月額20万円、往復渡航費、支度金20万円、 授業料（留学当初の2年間、年間300万円以内）	直接応募
（公財）伊藤国際教育交流財団　日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額12-16万円、学費（実費・年間300万円以内）、往復旅費（実費）	直接応募
（公財）二十一世紀文化学術財団　海外留学助成金	原則2年以内	授業料2年分、研究活動費180万円　博士課程進学予定者対象	直接応募
（公財）本庄国際奨学財団　海外留学（大学院生）奨学生募集	1～5年	月額15万円～20万円	直接応募
College Women's Association of Japan　海外留学大学院女子奨学金	指定なし	250万円　女性限定	直接応募
日米教育委員会　フルブライト奨学生	6ヶ月～1年	往復渡航費、生活費、授業料等、基本的に全額支給 アメリカ留学	直接応募
オーストラリア政府奨学金　エンデバー奨学金	4ヶ月～4年	23,500豪ドル～163,500豪ドル　オーストラリア留学	直接応募
日加リーダーシップ基金　高等教育機関奨学金	1年以上	100万円　カナダ留学	直接応募
フランス政府給費留学生	9月～翌6月（学生）または 10月から1年（ポスドク）	滞在費月額€615～1374、大学登録料・学費免除、 渡航費援助、社会保険料等　フランス留学	直接応募
（独）日本学生支援機構第二種奨学金（海外）（有利子貸与）	学位取得の標準修業年数以内	月額3万円～15万円	本部奨学厚生課

10. 学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約3,000名の留学生が学んでいます。キャンパス内でも国際体験ができる機会が数多くありますので、留学の準備や国際交流の機会として活用しましょう。以下に一例を紹介します。

IARU Global Summer Program東京大学開講コース

東京大学は、例年7月頃、IARU Global Summer Programにより、世界のトップレベル9大学の学生を受け入れる英語プログラムを実施しています。

以下の東京大学において開催されるコースは、学部3年生以上の本学学生は集中講義として通常の授業と同様に受講可能となる予定です。(教養学部前期課程の学生は履修できません。)海外大学の学生も東大生との交流を希望しており、また英語での授業のため留学の準備としても効果的です。

・Sustainable Urban Management(工学部開講)
・Nanoscience(工学部開講)
・Japan in Today's World(法学部開講)

※開講時期・内容については授業カタログを参照のうえ、参加を希望する場合は夏学期の履修登録時に履修手続を行ってください。他学部聴講となる場合は、所属学部・研究科の規則により履修可能かどうか確認してください。

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」とは、外部英語学校を誘致し、学部3,4年生の英語力向上を目的として2005年に工学部で始まったプログラムです。2010年4月からは本郷キャンパス全体で大学院生・学部学生を問わず開講されることになりました。英会話講座に4社、TOEFL講座に2社が参画し、本郷キャンパスで夕刻に開講、比較的低価格で講座を受講できます。

実施期間は、夏学期、冬学期それぞれ10週間ずつです。日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策など目的別にさまざまなコースを展開していますので、奮ってご参加ください。

URL: http://www.sel-ut.com/

国際センターによる国際交流活動の例

東京大学国際センター各オフィスでは、さまざまな国際交流活動を実施しています。

(1) 国際センター本郷オフィス:
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/index_j.html

留学生との交流を目的としてFACE(Friendship And Cultural Exchange)プログラム、中国語茶話会、言語交換プログラムなどを実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下でご確認ください。
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/face/face02_info02_j.html

(2) 国際センター駒場オフィス:
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/komaba/index.html

駒場Iキャンパスおよび駒場IIキャンパスにおいて、留学生や外国人研究者との国際交流の機会を設けています。詳細は、国際センター駒場オフィスのウェブサイトをご覧ください。

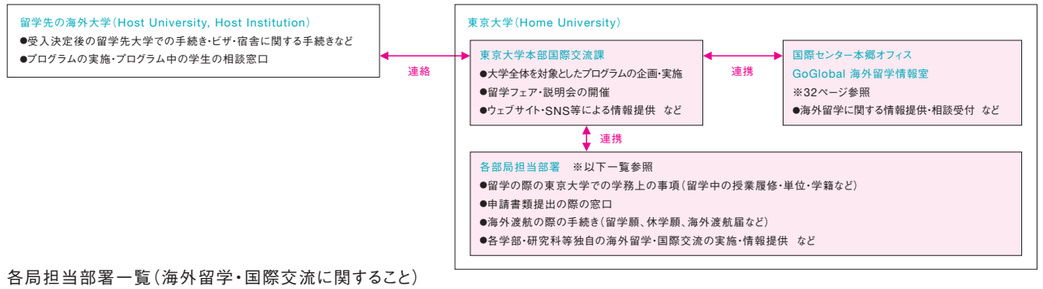
(3) 国際センター柏オフィス:
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/

- 1対1交流プログラム
  柏キャンパスで学ぶ留学生、研究等で招聘された外国人研究者およびその家族と、日本人ボランティアが1対1で交流するためのプログラムを実施しています。基本的に日本語での会話を通し、日本語の上達、日本の文化・歴史を知ること等を目的としたものです。詳細は以下でご確認ください。
  http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/event/onetoone.html
- 英語講座
  大学院生及び職員を対象に、平日に柏キャンパス内の教室を利用して英会話講座を開講しています。英会話講座、科学技術英語講座の他にTOEFL集中講座も無料で受講できます。詳細は以下でご確認ください。
  http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/language/englishlecture.html

11. 東京大学の留学・国際交流関係部署

東京大学の留学や国際交流に関する部署の体制は大まかに以下のようになっています。内容に応じて、担当部署に報告・連絡・相談などを行ってください。

本部担当留学プログラムの場合の例



各局担当部署一覧(海外留学・国際交流に関すること)

部局名	海外留学・国際交流に関する情報入手先	担当部署
法学部 法学政治学研究科	学部:法学部掲示板 大学院(総合法政専攻): http://www.j.u-tokyo.ac.jp/in/shs/contents/jugyo.html 大学院(法曹養成専攻): http://www.j.u-tokyo.ac.jp/in/hys/contents/jugyo.html	学部:教務係、留学生担当 大学院:大学院係、留学生担当
医学部 医学系研究科	募集関係の情報: 医学部掲示板・医学系研究科掲示板 学部・研究科の留学等情報: http://koryu.m.u-tokyo.ac.jp/homepage00.html	学部:教務係、国際交流室 大学院:大学院係、国際交流室
工学部 工学系研究科	募集関係の情報: 学生・院生用情報ポータルサイト(学生専用・非公開) 学部の交換留学等情報・研究科の留学等情報: http://www.oice.t.u-tokyo.ac.jp/index.html	国際交流チーム
文学部 人文社会系研究科	http://www.l.u-tokyo.ac.jp/student.html	学部:大学院係(留学相談)、教務係(教務関係相談) 大学院:大学院係
理学部 理学系研究科	募集関係の情報: 理学部掲示板 学部の留学等情報: http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/current/ 研究科独自の留学等情報: http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/current/graduate.html	教務チーム学部担当(手続き等に関すること) 教務チーム大学院担当(手続き等に関すること) 国際化推進室(留学相談)
農学部 農学生命科学研究科	http://www.a.u-tokyo.ac.jp/cstudents/index.html	学部学生担当 大学院学生担当
経済学部 経済学研究科	http://www.gaia.e.u-tokyo.ac.jp/is/index-j.html	学部:教務係、留学生・国際交流担当チーム 大学院:大学院係、留学生・国際交流担当チーム
教養学部 総合文化研究科	【学部・研究科共通】 http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/komaba/whatsnew/ 国際交流支援係の掲示版 【前期課程】 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/index.html PEAK生向け: http://www.c.u-tokyo.ac.jp/eng_site/zenki/peak/ 【後期課程】 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/fas/index.html AIKOM: http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/aikom/jpn/kaigai.html 【総合文化研究科】 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/graduate/index.html	【前期課程】 国際交流支援係、前期課程係(教務関係相談)、国際化推進係(PEAK教務関係相談) 【後期課程】 AIKOM委員会室、国際交流支援係、後期課程係(教務関係相談)、国際研究協力室 【総合文化研究科】 国際交流支援係、総合文化大学院係(教務関係相談)、国際研究協力室
教育学部 教育学研究科	教育学部学生支援チームホームページ(学生専用・非公開)	学生支援チーム学部担当 学生支援チーム大学院担当 国際交流室
薬学部 薬学系研究科	薬学部掲示板・薬学系研究科掲示板 学部・研究科の留学等情報: http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~israr/ja/isar/study_abroad.html	国際交流室(留学全般に関する相談) 教務チーム(単位認定・学籍等の学務関係の相談)
数理科学研究科	http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/kyoumu_e/liaison_e.html	数理科学教務係
新領域創成科学研究科	http://www.ilo.k.u-tokyo.ac.jp/index.php	教務係(単位認定・学籍等の学務関係) 国際交流室(部局間協定に基づく学生交流)
情報理工学系研究科	留学に関すること全般: http://www.i.u-tokyo.ac.jp/edu/inter_ex/oir/index.shtml 募集や奨学金等の情報: http://info.t.u-tokyo.ac.jp/k_suisin1/oice/haken.html	国際交流室
学際情報学府	学際情報学府ポータルサイト(学府学生専用)	学務係、留学生支援室
公共政策学教育部	募集関係の情報: http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/students/board/index.htm 公共政策学教育部独自の留学等情報: http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/international/fe_program.htm	公共政策大学院係(全学学生交流に関する事項) 国際交流担当(部局間協定に基づく学生交流)

12. 留学・国際交流に関する情報収集

有意義な留学・国際交流のためには、情報収集が大変重要です。留学の成否は情報収集が左右すると言っても過言ではありません。以下のような様々なツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

●東京大学 Go Global海外留学・国際交流情報

①ウェブサイト（通称Go Globalウェブサイト）

本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新の情報が掲載されています。

http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/

（「東大」「留学」で検索）

②Facebook, Twitter

本部国際交流課からの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の新着情報を掲載しています。募集期間が短いものもありますので、Facebook・Twitterをフォローすれば、有益な情報を迅速に得ることができます。

Facebook　http://www.facebook.com/todai.go.global

Twitter　http://twitter.com/todai_global（@todai_global）

（Go Globalウェブサイトのアイコンをクリック）

③Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学生・教職員・卒業生が海外留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループ「Todai Go Global Network」があります。積極的にご活用ください。

※参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。参加方法はウェブサイトをご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/contacts/index.html

（Go Globalウェブサイト→「質問・相談」ページ）

④留学体験記

Go Globalウェブサイトには詳細な留学体験記が掲載されています。経験者の生の声も参考にしましょう。

http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/program/experience.html

（Go Globalウェブサイト→「留学プログラム」のページ）

●Go Global海外留学情報室

東京大学国際センター本郷オフィスでは、「Go Global海外留学情報室」を開設し、海外留学に関する情報提供・相談などを行っています。開室時間・相談受付時間などをウェブサイトで確認の上、ご利用ください。

場所：本郷キャンパス第二本部棟1階　インフォメーションサービスルーム

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/students/goabroad.htm

●各部局の担当部署

留学の際の東京大学での学務上の事項（留学中の授業履修・単位・学籍など）、各学部・研究科等独自の海外留学・国際交流については、各部局の担当部署で情報が得られます。

●留学・国際交流関連イベント

東京大学本部では、年に1回の大規模な留学フェアに加え、年に数回、比較的小規模な留学・国際インターンシップ・海外ボランティア等の説明会を開催しています。担当者や経験者の話を直接聞くことができます。

また、海外大学や各国大使館などが主催する留学関連イベントも多数開催されていますので、目的に応じて参加してみてください。

留学・国際交流関連イベントの情報もGo Globalウェブサイトや Facebook, Twitterなどで紹介しています。

http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/event/

（Go Globalウェブサイト→「イベント」ページ）

●留学先大学のウェブサイト

留学先大学のウェブサイトも大変重要です。必要な語学条件や履修可能な授業、費用などについて、自らの責任でしっかり確認することが大切です。

●その他関連団体のウェブサイト

日本学生支援機構のウェブサイトでも、海外留学に関する体系的な情報が得られます。また、各国大使館のウェブサイトも貴重な情報源です。

独立行政法人日本学生支援機構　海外留学情報ページ

http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info.html

［編集・発行］2013年4月1日／東京大学本部国際交流課
［E-mail］studyabroadfair@ml.adm.u-tokyo.ac.jp ［Web］http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/
［Facebook］http://www.facebook.com/todai.go.global ［Twitter］http://twitter.com/todai_global

本ガイドブックの情報は、編集時点での情報です。変更される場合がありますので、最新の情報はウェブサイト等で確認してください。